

函 企 計

令和 8 年(2026 年) 7 月 1 日

総務常任委員会委員 各位

企 画 部 長

第 2 回函館市基本構想審議会資料の配付について

このことについて、令和 8 年 6 月 3 0 日に実施いたしました標記会議の資料を、別添のとおり配付させていただきますので、よろしくお願いいたします。

記

1 配付資料

【資料】

資料 1 次期函館市基本構想策定に向けた検討資料（改訂版）

【参考資料】

参考資料 1：函館市の各種統計資料

参考資料 2：第 1 回審議会 各委員からの意見一覧

（企画部計画推進室新計画策定担当 内線：3650）

次期函館市基本構想策定に向けた検討資料(改訂版)

【1 概要】

1. 策定の意義
2. 期間
3. 対象区域

(別紙1)
P. 1

【2 本市を取り巻く状況】

1. 社会情勢

- (1) 人口減少・少子高齢化の急速な進行
- (2) デジタル化の進展
- (3) グローバル化の拡大
- (4) 環境・エネルギー問題
- (5) 大規模災害への対応

(別紙2-1)
P. 2

2. 本市の特性

- (1) 概況
- (2) 地域資源

(別紙2-2)
P. 3～P. 4

3. 本市の現状・将来展望

- (1) 人口の推移と将来推計
- (2) 経済・産業
- (3) 市民生活
- (4) 土地利用の方向

(別紙2-3)
P. 5～P. 7

【3 まちづくりの視点】

1. ウェルビーイングの向上
2. シビックプライドの醸成
3. 地域資源を活かした価値の創出と地域経済の循環
4. 選択と集中による未来への投資

(別紙3)
P. 8

【4 目指すまちの姿】

1. 「ふれあいに包まれ、安心して暮らし、子育てができ、
若者が住み続けたいくなるイメージ像」
2. 「まちに活気や賑わいがあり、
ここで仕事をして暮らしていきたいと思えるイメージ像」

(別紙4)
P. 9

【5 実現に向けて】

1. 基本方針

- (1) 人にやさしく、住み続けたい・帰ってきたいと思えるまち（ひと）
- (2) 笑顔と活気にあふれ、機能的で暮らしやすいまち（くらし）
- (3) 多様な仕事や働き方を選び、将来を描けるまち（しごと）
- (4) 世界に誇る強みと魅力にあふれる持続可能なまち（都市）

(別紙5-1)
P. 10

2. 基本施策

- (1) 人にやさしく、住み続けたい・帰ってきたいと思えるまち（ひと）
 - ① 支え合いと幸せを実感できる郷土づくり
 - ② 安心して結婚・子育てができる環境づくり
 - ③ 未来を担うひとを育てる学びと環境の充実
- (2) 笑顔と活気にあふれ、機能的で暮らしやすいまち（くらし）
 - ④ 健康で生き生きと暮らせる市民生活の確保
 - ⑤ 安心で快適な生活環境の形成
 - ⑥ 安全で持続可能な都市基盤の整備
- (3) 多様な仕事や働き方を選び、将来を描けるまち（しごと）
 - ⑦ 多様で柔軟な働き方を実現する雇用環境の充実
 - ⑧ 地域経済を支える人材育成と事業者支援
 - ⑨ 環境と共生し、将来につながる産業の創出と振興
- (4) 世界に誇る強みと魅力にあふれる持続可能なまち（都市）
 - ⑩ 世界に誇れる都市の価値と魅力の創出
 - ⑪ 創意あふれる、持続可能なまちづくりの推進
 - ⑫ つながりと共創を育む移住・関係人口の創出

(別紙5-2)
P. 11～P. 12

1 策定の意義

(省略)

2 期間

・令和 9（2027）年度から10年後にあたる令和18（2036）年度を目標年次とします。

3 対象区域

・対象区域は、函館市全域とします。ただし、必要に応じて、広域的な対応として、市域外についても含めるものとします。

1 社会情勢

（１）人口減少・少子高齢化の急速な進行

・人口減少と少子高齢化は、全国的に急速に進行しており、地域社会の持続性に大きな影響を及ぼしています。

・若い世代の減少や未婚化・晩婚化を背景とした出生数の減少により生産年齢人口が減少し、経済規模の縮小や社会保障関係費の増大が懸念され、とりわけ地方都市においては、東京圏への一極集中という構造的な流れの中で若年層の都市部への流出に歯止めがかからず、地域活動の担い手不足をはじめとする多くの問題が顕在化しています。

（２）デジタル化の進展

・近年、情報通信技術の進展やD X（デジタルトランスフォーメーション）の推進により、社会経済の在り方は大きく変化しており、地域が抱える様々な課題の解決や暮らしの利便性向上に向け、デジタル技術の活用が進められています。

・新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、テレワークやオンラインサービスの普及が進むとともに、生成 A I をはじめとする人工知能技術の急速な発展により、業務の効率化や新たなサービスの創出など、社会の様々な分野で変革が進んでいます。

（３）グローバル化の拡大

・情報通信技術や交通網の発達により、人・モノ・情報の交流が世界規模で拡大し、地域においても、グローバルな視点に立った取組が進められています。

・外国人材の増加やインバウンド需要の拡大などにより、地域における国際化への対応が進むなか、多様な文化や価値観を尊重した地域づくりが重要となります。

（４）環境・エネルギー問題

・地球温暖化をはじめとする環境・エネルギー問題への対応が世界的な課題となるなか、国では令和32（2050）年までのカーボンニュートラルの実現に向け、G X（グリーントランスフォーメーション）を基軸とした脱炭素社会への転換が進められています。

・再生可能エネルギーの導入拡大や省エネルギー化、資源循環の推進など、環境負荷の低減に向けた取組はもとより、経済社会全体の構造転換を見据えた対応が重要となります。

（５）大規模災害への対応

・近年、気候変動の影響と考えられる異常気象により、全国各地で豪雨や土砂災害など自然災害の激甚化・頻発化が進んでいます。

・災害リスクが高まるなか、自らの命を守る「自助」、地域で支え合う「共助」、国や自治体による「公助」を効果的に推進し、市民と行政等が一体となった防災体制の強化が重要となります。

2 本市の特性

(1) 概況

①位置・地勢

・本市は、北海道南端の渡島半島南東部に位置し、津軽海峡を隔てて本州と向き合い、地形は三方を海に囲まれ、背後に山地が広がる構造となっており、海と山に囲まれた市街地が形成されています。

・対馬暖流の影響により、道内では比較的温暖で積雪の少ない気候にあります。こうした位置や自然条件を背景に、本市は古くから海上交通の拠点として発展し、北海道と本州を結ぶ広域的な交流の結節点としての役割を担っています。

②あゆみ

・安政 6（1859）年、我が国を代表する国際貿易港の一つとしていち早く海外に門戸を開き、異文化の受容を通じて独自の歴史と文化を形成してきました。

・その後も、北海道の玄関口として、交通や物流の拠点機能を担うとともに、水産業などを中心に発展し、道南地域の中核都市としての役割を果たしてきました。

・近年においては、社会経済情勢の変化や人口減少の進行などにより、都市を取り巻く環境は大きく変化していますが、これまで培ってきた歴史的資源や豊かな自然環境を背景に、観光や交流をはじめとした多様な機能を有する都市として、新たな時代に対応した持続的な発展につなげる取組を進めています。

【2 本市を取り巻く状況】

2 本市の特性

(2) 地域資源

①名所

・函館山から望む夜景に代表される、世界に誇る美しい景観を有し、異国情緒あふれる西部地区の街並みやベイエリアに加え、歴史ある温泉地である湯の川温泉など、歴史・自然・癒やしが調和した多彩な名所が点在しています。

・これらは、訪れる人々に深い感動と安らぎを与えるとともに、本市の魅力を象徴する重要な地域資源です。

②史跡

・特別史跡である五稜郭をはじめとする近代の歴史資産に加え、世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産である史跡垣ノ島遺跡と史跡大船遺跡を有しており、縄文時代から続く人々の営みと交流の歴史を現在に伝えています。

・縄文文化を象徴する国宝である中空土偶（通称「カックウ」）は、本市の歴史的価値と文化的魅力を広く発信する存在となっています。

③名産品

・津軽海峡をはじめとする豊かな漁場と肥沃な大地に恵まれ、いかや昆布、マグロ、ぶりなどの新鮮で高品質な水産物に加え、近郊で生産される野菜や乳製品など、魅力ある食資源を有しています。

・なかでも、函館のいかは全国的な知名度を誇り、本市の食文化を象徴する存在となっています。

・こうした食材の魅力を活かした海鮮料理、スイーツなど多様な食の楽しみが広がっており、多彩な食を味わうイベントなどの取組は、本市ならではのにぎわいと交流を生み出しています。

④施設

・函館アリーナや函館市芸術ホール、函館市国際水産・海洋総合研究センターなど、文化・スポーツ、学術・研究といった多様な分野にわたる施設を有しており、市民の学びや交流の場として活用されるとともに、地域の活力や新たな価値創出の拠点として重要な役割を果たしています。

⑤公園

・五稜郭公園や函館公園に加え、恵山道立自然公園や美しい庭園景観で知られる香雪園など、歴史や自然と調和した魅力ある公園を数多く有しており、四季折々の風景を楽しめる市民の憩いの場であるとともに、桜や紅葉などの季節の魅力を通じて観光資源としても高い価値を有し、人々に潤いや憩いをもたらす空間となっています。

⑥交通

・市電や路線バスなどの日常生活を支える交通機能に加え、道外主要都市と直結する函館空港、フェリー等の海上交通機能や物流機能を担う函館港、さらには北海道新幹線など、陸・海・空にわたる交通ネットワークが充実し、道南圏域における広域交通の結節点として重要な役割を担っています。

3 本市の現状・将来展望

(1) 人口の推移と将来推計

・本市の人口は、昭和55（1980）年をピークに減少し、令和2（2020）年には25万1,084人となっており、年齢3区分による人口は、昭和55（1980）年以降、15歳から64歳の生産年齢人口および15歳未満の年少人口がともに減少を続けており、平成7（1995）年からは65歳以上の老年人口が年少人口を上回っています。

・令和5（2023）年には前年からの減少数が4,000人を上回り、同年の合計特殊出生率が1を下回るなど、人口減少が著しい状況にあります。

・「函館市人口ビジョン」では、令和17（2035）年の人口は19万4千人から19万9千人と推計されており、年齢3区分による推計人口については、年少人口が1万3千人から1万5千人、生産年齢人口が9万9千人から10万3千人、65歳以上の老年人口は8万1千人から8万3千人程度と見込まれています。

・若年層の転出超過に加え、出生数の減少、高齢者の死亡数の増加といった様々な要因により社会減と自然減が同時に進行しており、今後も人口減少が続くことが見込まれ、地域経済や地域コミュニティへの影響が懸念されています。

(2) 経済・産業

・本市は、水産業や観光業をはじめとする地域資源を強みとした産業に加え、農業や商業、医療や福祉のサービス業など多様な産業によって地域経済が支えられてきました。その一方で、人口減少に伴う市場縮小や担い手不足の影響を受け、経済規模は縮小傾向にあるほか、働く場の選択肢が限られることで若年層の定着にも影響を与えており、安定した雇用基盤の確保が十分とはいえない状況にあります。

・こうしたなかで持続的な地域経済の活性化を図っていくためには、DX（デジタルトランスフォーメーション）やGX（グリーントランスフォーメーション）の推進など、新たな成長分野も見据えたさらなる挑戦が必要となります。

・既存産業の高度化と新産業の創出を両輪として進めるとともに、多様な働き方を支える環境整備により、若者や女性、高齢者など誰もが活躍できる雇用の場を創出すること、また、経済的豊かさのみならず、働きがい・生きがいを感じられる環境づくりを通じて、心の豊かさや暮らしの質の向上を重視した取組が必要となってきます。

・平成28（2016）年3月の北海道新幹線の開業は、本市において、一定の観光需要・交流人口の拡大などにつながったところですが、今後は予定される札幌延伸を見据え、長期的な視点に立ったまちづくりを進めることにより、新たな交流や産業の展開につなげていくことが重要となります。

【2 本市を取り巻く状況】

3 本市の現状・将来展望

(3) 市民生活

・本市では、少子化と高齢化が同時に進行し、いわゆる「少子・超高齢社会」が現実のものとなっており、高齢夫婦世帯や単身高齢者世帯の増加により、地域における見守りや支え合いの重要性が高まっています。

・少子化が進行するなか、子育て世代を取り巻く環境も変化しており、経済的不安や就労と育児の両立など、多様なニーズへの対応が求められています。さらに、高齢化が進行することに伴い、介護サービスの充実に加え、移動手段の確保、買い物環境の維持、地域コミュニティの構築など、日常生活を支える基盤の強化や、医療と介護の連携の推進が必要となっており、そのほかにも、空き家の増加など、人口減少に伴う都市機能の維持も大きな課題となっています。

・高齢者の豊富な経験や知識を地域活動や産業分野で活かす取組、子どもや若者の挑戦を支える環境整備、多文化共生の推進など、多様な主体が活躍できる社会の構築は、本市の持続性を高める重要な視点となってきます。

・今後は、健康寿命の延伸や生涯学習の推進などを通じて、市民一人ひとりが自分らしく暮らし続けられる社会の実現を目指す必要があり、少子・超高齢社会という構造的課題に正面から向き合いながら、子どもから高齢者まですべての人が元気に活躍し続けられる、安心して暮らすことのできる地域社会を実現することが求められています。

【2 本市を取り巻く状況】

3 本市の現状・将来展望

(4) 土地利用の方向

- ・土地は、人が生活し生産活動などを行ううえで基盤となるものであり、未来へ適切な形で引き継ぐべき限られた資源です。
- ・このため、本市の現状や地域特性を踏まえ、土地利用にあたっては、「市街地」、「農業・漁業地域」、「森林」、「緑地」の4つに分類します。
- ・市民、事業者および行政は、この分類に基づき、それぞれの土地の現状や役割を的確に把握するとともに、相互に連携・協働しながら、生活環境の維持・向上、自然環境の保護・保全および災害に対する安全性の確保を図ります。
- ・人口減少や社会構造の変化を見据え、長期的な視点に立って、持続可能で計画的な土地利用を進めます。

①市街地

- ・市街地は、健康で文化的な生活と地域産業の振興を支える企業活動の場であり、商工業をはじめ、医療や福祉、教育などの都市機能が集積している地域です。
- ・人口減少が避けられないなか、市街地の土地利用にあたっては、既存資源の有効活用や都市機能の集約化の視点に立ち、居住機能と都市機能の適正な配置を図るとともに、公共交通との連携によるコンパクトで持続可能な市街地の形成を進め、利便性と快適性の向上に努めます。

②農業・漁業地域

- ・農業・漁業地域は、生産活動や生活の場であるとともに、豊かな自然を有する地域です。
- ・そのため、農林水産業の持続的な発展と自然環境の保護・保全との調和を図るとともに、地域コミュニティの維持・活性化に取り組んでいきます。
- ・なかでも農地は、農業の生産基盤となる大切な資源であることから、その整備により生産性の維持・向上を図るとともに、他用途への転用を最小限にとどめ、適切な保全に努めます。

③森林

- ・森林は、水源のかん養や生物多様性の保全、山地災害の防止、休養の場、地球温暖化の防止のほか、沿岸海域の環境保全など、多面的な機能を有しており、計画的な整備と適切な管理により、森林の有する公益的機能の維持・向上に努めます。

④緑地

- ・樹林や公園に代表されるオープンスペースとしての緑地は、都市環境の維持やレクリエーション活動、都市防災、良好な景観の形成といった役割を担っています。
- ・自然の宝庫で観光資源でもある恵山道立自然公園や函館山などは、市民共有の貴重な財産であることから、これら緑地の保全と適切な利活用を図り、さらなる価値の向上や機能向上に努めます。

・本市を取り巻く社会情勢の変化や、あらゆる分野の取組においても、直面する課題に的確に対応するため、以下の4つの視点に基づき、まちづくりを進めます。

1 ウェルビーイングの向上

- ・これまでの経済が右肩上がり成長していた時代の「物質的な豊かさ」を求める価値観から、生活の質や満足度を高めることを主眼に置いた「こころの豊かさ」を求める価値観へと変化が生じています。市民一人ひとりが幸福な生活を送るためには、価値観の多様化や社会情勢の変化に応じて、ウェルビーイングの向上を図る取組が重要となります。
- ・今後の社会においては、年齢、性別、障がいの有無、国籍、文化的背景などの違いにかかわらず、多様な人々が互いを認め合い、支え合いながら活躍できる環境を整えていくことが大切であり、人が社会的孤立や排除されことなく互いに成長し、能力を活かし、多様性を力に変えられるまちを目指すなど、インクルージョンの視点に立った取組を進めることが重要となります。

2 シビックプライドの醸成

- ・シビックプライドの醸成は、地域活動への参加促進や地域コミュニティの活性化につながるとともに、移住・定住の促進や地域の魅力発信などにもつながります。
- ・持続可能なまちづくりを進めるためには、市民一人ひとりが地域に愛着と誇りを持ち、自分事として主体的に地域活動や地域課題の解決に関わる視点が重要となります。

3 地域資源を活かした価値の創出と地域経済の循環

- ・地域の活力を向上させていくためには、本市の地域資源を活用するだけでなく、磨き上げや組み合わせにより新たな価値を創出し、付加価値の高い産業やサービスの展開につなげ、国内外からの需要も取り込みながら、地域で生み出された価値を域内で循環する経済の仕組みづくりを進める視点が重要となります。

4 選択と集中による未来への投資

- ・地域の持続的な発展に向けては、様々な施策を効率的・効果的に推進することはもとより、限られた財源の中で中長期的を見据え、子どもたちや若者への投資、さらには地域資源を活かした魅力あるまちづくりなどへ重点的に配分する視点が重要となります。

- ・一人ひとりが日々の暮らしの中で小さな幸せを実感し、その積み重ねがまち全体の豊かさや活力を生み出すことで、変化の時代にあっても誰もが生き生きと安心して暮らせる地域社会の実現へとつながっていきます。
- ・こうした願いを込めて、次の2つの「目指すまちの姿」を定めます。

「ふれあいに包まれ、安心して暮らし、子育てができ、 若者が住み続けたいくなるイメージ像」

- ・価値観やライフスタイルの多様化が進むなか、市民一人ひとりが将来にわたり安心して暮らし続けることができる地域社会の実現が求められています。
- ・そのため、医療・福祉・防災などの生活基盤の充実を図ります。
- ・地域コミュニティの活性化や世代を超えた交流の促進を通じて、孤立の防止や地域の支え合い機能の強化を図ります。
- ・子どもから高齢者まで、誰もが住み続けたいくなるまちづくりを進めます。

「まちに活気や賑わいがあり、 ここで仕事をして暮らしていきたいと思えるイメージ像」

- ・将来にわたり持続的に発展していくためには、地域経済の活性化と安定した雇用の確保が不可欠です。
- ・そのため、これまで培われてきた水産業や観光業をはじめとする基幹産業に加え、本市が有する地域資源やポテンシャルを活かし、今後成長が期待される分野における産業振興を推進します。
- ・多様な人材が能力を発揮できる環境づくりを進めるとともに、企業や団体などとの連携を通じて、新たな価値の創出を図ります。

- ・本市の人口は、今後も減少傾向が続き、令和52（2070）年には、7万9千人から11万1千人程度になるものと推計しています。人口減少・少子高齢化への対応は中長期的な視点のもと継続的に進めていく必要がありますが、若者の地元定着など様々な取組を通じて、その進行を緩やかにし、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めます。
- ・さらに、物価高騰や人手不足の影響などにより、市民の暮らしや事業活動は一層厳しい状況にあります。これまでの成長を前提としたまちづくりには限界が見え始めていることから、今後は、量的拡大から質的充実へと価値の軸足を移し、市民一人ひとりのウェルビーイングの向上を基軸とした新たな社会の構築を目指します。
- ・また、その実現に向けては「持続可能な開発目標（SDGs）」の理念を踏まえ、経済・社会・環境の調和を図りながら、誰一人取り残さない持続可能な地域社会の実現に向けた取組が重要となります。そのためにも、一人ひとりが自分事として主体的に取り組み、できることから着実に実践していくことが重要であり、これらの積み重ねにより地域全体の行動変容を促し、より良い未来の実現につなげていく必要があります。
- ・こうした考えのもと、4つの基本方針と12の基本施策を掲げ、体系的にまちづくりを進めていきます。

1 基本方針

（1）人にやさしく、住み続けたい・帰ってきたいと思えるまち（ひと）

・多様な価値観や生き方を尊重し、誰もが安心して、自分らしい未来を選択できる環境を整えるとともに、幸せを実感しながら、住み続けたい・帰ってきたいと思えるまちを目指します。

（2）笑顔と活気にあふれ、機能的で暮らしやすいまち（くらし）

・市民一人ひとりが、健康で生きがいを持ち、安心して暮らし続けられるよう、医療や福祉の充実に加え、生涯学習や地域における支え合いの仕組みづくりを進めるとともに、環境にやさしい生活環境の形成や、都市基盤の整備、防災・減災対策の強化に取り組み、誰もが笑顔で生き生きと暮らすことができる、安全で安心なまちを目指します。

（3）多様な仕事や働き方を選び、将来を描けるまち（しごと）

・誰もが自分らしく働き、将来に希望を持ちながら多様な働き方を選択できるよう、柔軟な雇用環境の整備やDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進、人材育成、起業支援などに取り組むとともに、観光や食、農林水産業など地域資源を活かした産業振興や新たな産業の創出を進めることで、地域経済の活力を高めながら、将来を担う人材が地域で挑戦し活躍できるまちを目指します。

（4）世界に誇る強みと魅力にあふれる持続可能なまち（都市）

・函館が世界に誇る夜景や歴史、食や自然など多彩な地域資源を磨き上げ、国内外へ力強く発信し、多様な人々との交流と共創を通じて新たな価値と活力を生み出しながら、歴史と景観を大切に持続可能なまちづくりを進め、世界から人が集い、訪れるたびに新たな魅力や感動に出会えるまちを目指します。

2 基本施策

(1) 人にやさしく、住みたい・帰ってきたいと思えるまち（ひと）

① 支え合いと幸せを実感できる郷土づくり

・多様な価値観や個性を認め合い、年齢や性別、障がいの有無、国籍等にかかわらず、誰もが地域の一員として尊重され、自分らしく暮らし、活躍できる環境づくりを進めるとともに、地域のつながりを大切にしながら、郷土への愛着と誇りを育み、幸せを実感できるまちづくりを進めます。

② 安心して結婚・子育てができる環境づくり

・出会い・結婚から妊娠・出産・子育てに至るまでの切れ目のない支援の充実、子育て世代が働きやすい環境づくりを進めるとともに、地域全体で子どもの成長を支える環境を整え、安心して子どもを産み育てられるまちを目指します。

③ 未来を担うひとを育てる学びと環境の充実

・子どもを取り巻く様々な社会問題に対応し、未来を担う子どもたちが安心して学び、育つことができる環境づくりを推進するとともに、多様な学びや成長の機会の充実を図り、社会の変化に対応できる力を育み、地域社会を支える人材の育成や支援を進めます。

(2) 笑顔と活気にあふれ、機能的で暮らしやすいまち（くらし）

④ 健康で生き生きと暮らせる市民生活の確保

・市民の生きがいづくり、健康づくりを推進するとともに、医療や福祉の充実を図り、地域で支え合い、誰もが生き生きと暮らし続けられる地域社会の実現を目指します。

⑤ 安心で快適な生活環境の形成

・公共交通の維持・確保など地域生活を支える環境づくりを進めるとともに、環境保全や資源循環の取組を推進し、安心で快適な暮らしの実現を目指します。

⑥ 安全で持続可能な都市基盤の整備

・道路や上下水道などの都市インフラの整備を進めるとともに、防災・減災対策の充実を図り、安全で持続可能な都市基盤の形成を目指します。

【5 実現に向けて】

2 基本施策

（３）多様な仕事や働き方を選び、将来を描けるまち（しごと）

⑦多様で柔軟な働き方を実現する雇用環境の充実

・若者の地元就職やＵＩＪターン就職の促進，女性や高齢者など，多様な人材が働きやすい環境づくりを進め，誰もが柔軟な働き方を選択できる雇用環境の充実を図ります。

⑧地域経済を支える人材育成と事業者支援

・中小企業等への支援やＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進，起業の促進に加え，地域経済を担う若者や多様な人材の育成に取り組むとともに，事業者の成長を支援します。

⑨環境と共生し、将来につながる産業の創出と振興

・観光産業や農林水産業，学術研究機能など地域の強みを活かした産業の振興を図るとともに，新たな産業や付加価値の創出を進め，環境と共生しながら将来につながる産業の発展を目指します。

（４）世界に誇る強みと魅力にあふれる持続可能なまち（都市）

⑩世界に誇れる都市の価値と魅力の創出

・観光や食，歴史・文化など函館の魅力ある地域資源を活かし，国内外に誇れる都市の魅力と価値を高めるとともに，観光振興やＭＩＣＥ誘致などによる地域のにぎわい創出，文化・スポーツの振興を図ります。

⑪創意あふれる，持続可能なまちづくりの推進

・歴史や景観など函館固有の地域資源を活かしたまちづくりを進めるとともに，コンパクトで陸・海・空の交通ネットワークが充実した持続可能な都市形成や官民連携によるまちづくりを推進します。

⑫つながりと共創を育む移住・関係人口の創出

・移住の促進や関係人口の創出を図るとともに，国内外との交流・連携を通じ，本市と継続的に関わる人々を増やし，多様な主体との共創により，新たな魅力や地域活力の創出につなげる取組を進めます。

※ イメージ図

目指すまちの姿(2)

「(ふれあいに包まれ、
安心して暮らし、子育てができ、
若者が住み続けたいとなるイメージ像)」

「(まちに活気や賑わいがあり、
ここで仕事をして暮らしていきたい
と思えるイメージ像)」

基本方針(4)・基本施策(12)

～ひと～

人にやさしく、住み続けたい・帰ってきたいと思えるまち

- ① 支え合いと幸せを実感できる郷土づくり
- ② 安心して結婚・子育てができる環境づくり
- ③ 未来を担うひとを育てる学びと環境の充実

～くらし～

笑顔と活気にあふれ、機能的で暮らしやすいまち

- ④ 健康で生き生きと暮らせる市民生活の確保
- ⑤ 安心で快適な生活環境の形成
- ⑥ 安全で持続可能な都市基盤の整備

～しごと～

多様な仕事や働き方を選び、将来を描けるまち

- ⑦ 多様で柔軟な働き方を実現する雇用環境の充実
- ⑧ 地域経済を支える人材育成と事業者支援
- ⑨ 環境と共生し、将来につながる産業の創出と振興

～都市～

世界に誇る強みと魅力にあふれる持続可能なまち

- ⑩ 世界に誇れる都市の価値と魅力の創出
- ⑪ 創意あふれる、持続可能なまちづくりの推進
- ⑫ つながりと共創を育む移住・関係人口の創出

まちづくりの視点(4)

1. ウェルビーイングの向上
2. シビックプライドの醸成
3. 地域資源を活かした価値の創出と地域経済の循環
4. 選択と集中による未来への投資

函館市の各種統計資料

※第 2 回函館市基本構想審議会 参考資料

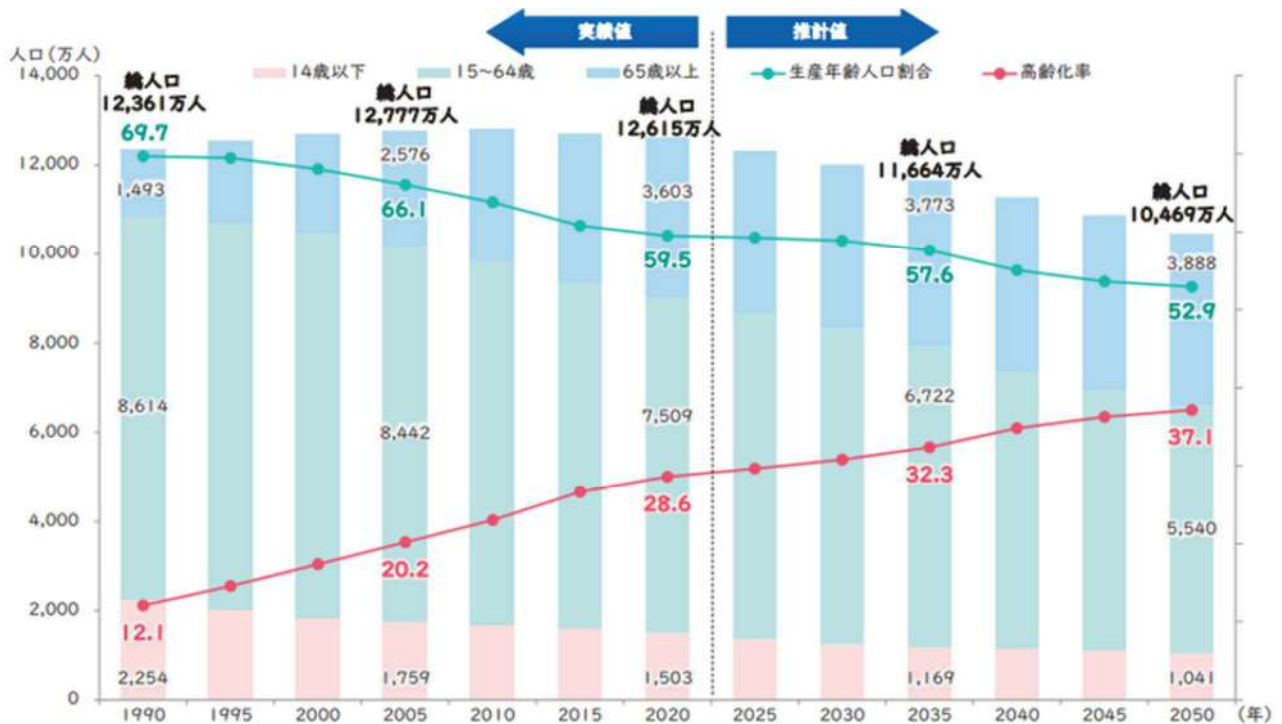
目 次

【図 1 : 日本の人口の推移と長期的な見通し】	P.1
【図 2 : 総人口および年齢 3 区分別人口の推移】	P.2
【図 3 : 女性人口と合計特殊出生率の推移】	P.2
【図 4 : 計画期間における人口の将来推計】	P.3
【図 5 : 総人口および年齢 3 区分別人口の将来推移 (中位)】	P.4
【図 6 : 年齢別転入・転出状況】	P.5
【図 7 : 転入数・転出数の推移】	P.5
【図 8 : 出生数・死亡数の推移】	P.6
【図 9 : 将来人口推計・人口ピラミッド】	P.7
【図 10 : 農業就業者数および経営耕地面積の推移】	P.8
【図 11 : 漁業就業者数および総水揚量の推移】	P.8
【図 12 : 卸売業・小売業の商店数, 従業員数, 商品販売額の推移】	P.9
【図 13 : 製造業の事業所数, 従業員数, 製造品出荷額の推移】	P.9
【図 14 : 職業選択等についてのアンケート結果】	P.10~12
【図 15 : 有効求人倍率】	P.13
【図 16 : 労働力人口の推移】	P.14
【図 17 : 函館公共職業安定所管内の地域別就職状況】	P.15
【図 18 : 観光入込客数推計の推移】	P.16
【図 19 : 全国, 北海道と比較した高齢化率の推移】	P.17
【図 20 : 高齢者の居住状況】	P.18
【図 21 : 出産・子育てについてのアンケート結果】	P.19~21
【図 22 : 学齢前児童数, 保育所・幼稚園等の入所 (園) 児童数と率の推移】	P.22
【図 23 : 小学校の児童数ならびに学校数の推移】	P.22
【図 24 : 医療施設数, 病床数および人口 10 万人あたりの率】	P.23
【図 25 : 要介護 (要支援) 認定者数の推移】	P.23
【図 26 : 身体障害者手帳の交付者数等の比較】	P.24
【図 27 : 交通機関別利用者数の推移】	P.24
【図 28 : 世帯数と町会加入率の推移】	P.25
【図 29 : 種類別空家の推移】	P.26
【図 30 : 公共施設等 用途分類ごとの経過年数別延床面積の割合等】	P.27
【図 31 : 外国人人口の推移】	P.28

【図 3 2 : 各分野における男女の地位の平等感】	・ ・ ・ ・ ・ P.29
【図 3 3 : 地域経済循環図】	・ ・ ・ ・ ・ P.30
【図 3 4 : 関係人口】	・ ・ ・ ・ ・ P.31
【図 3 5 : 今後のまちづくりや魅力等についてのアンケート結果】	・ ・ ・ ・ ・ P.32～40

【図1：日本の人口の推移と長期的な見通し】

検討資料 P.2 2-1-(1) 人口減少・少子高齢化の急速な進行

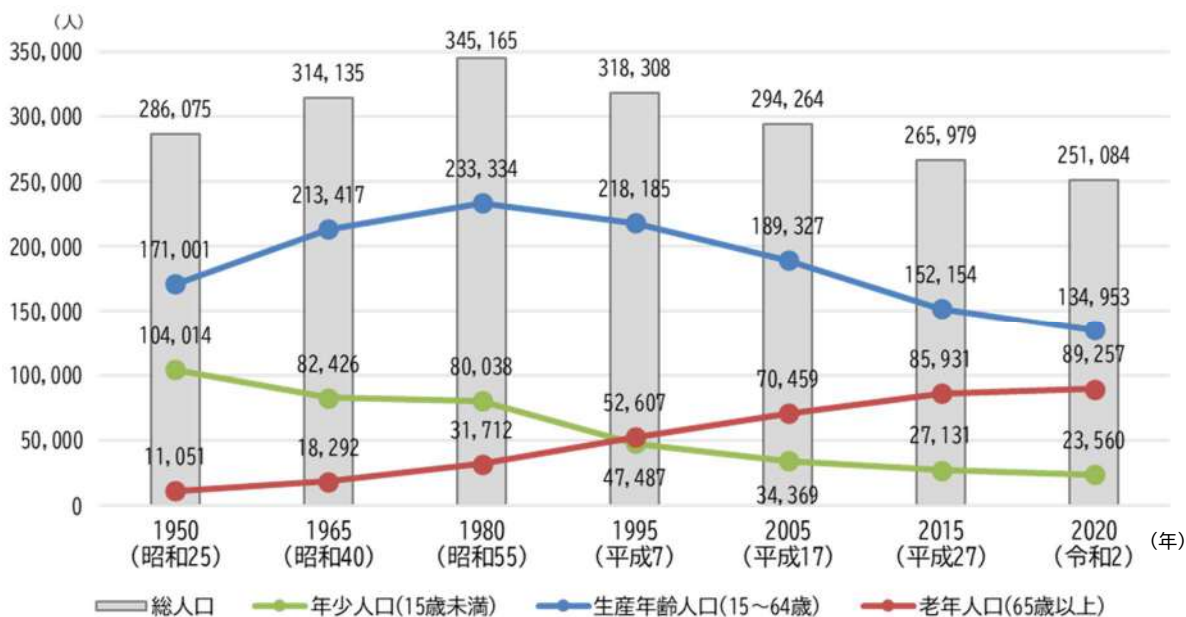


(出典) 厚生労働省「令和7年版 厚生労働白書」24 ページ

日本の総人口は、2008（平成20）年をピークに減少傾向にあります。生産年齢人口の割合は低下し続ける一方で、高齢化率は上昇が見込まれています。

【図 2：総人口および年齢 3 区分別人口の推移】

検討資料 P.5 2-3-(1) 人口の推移と将来推計

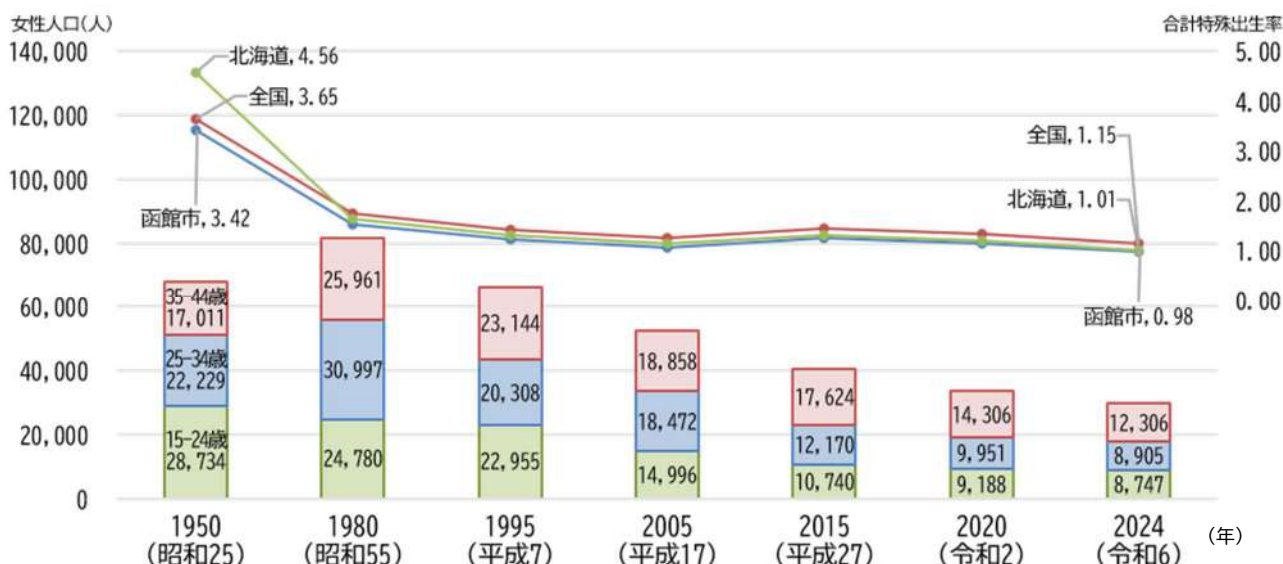


(出典) 総務省「国勢調査」

函館市の総人口は、1980（昭和 55）年をピークに減少しています。年少人口および生産年齢人口が減少する一方で、老年人口は増加を続けています。

【図 3：女性人口と合計特殊出生率の推移】

検討資料 P.5 2-3-(1) 人口の推移と将来推計



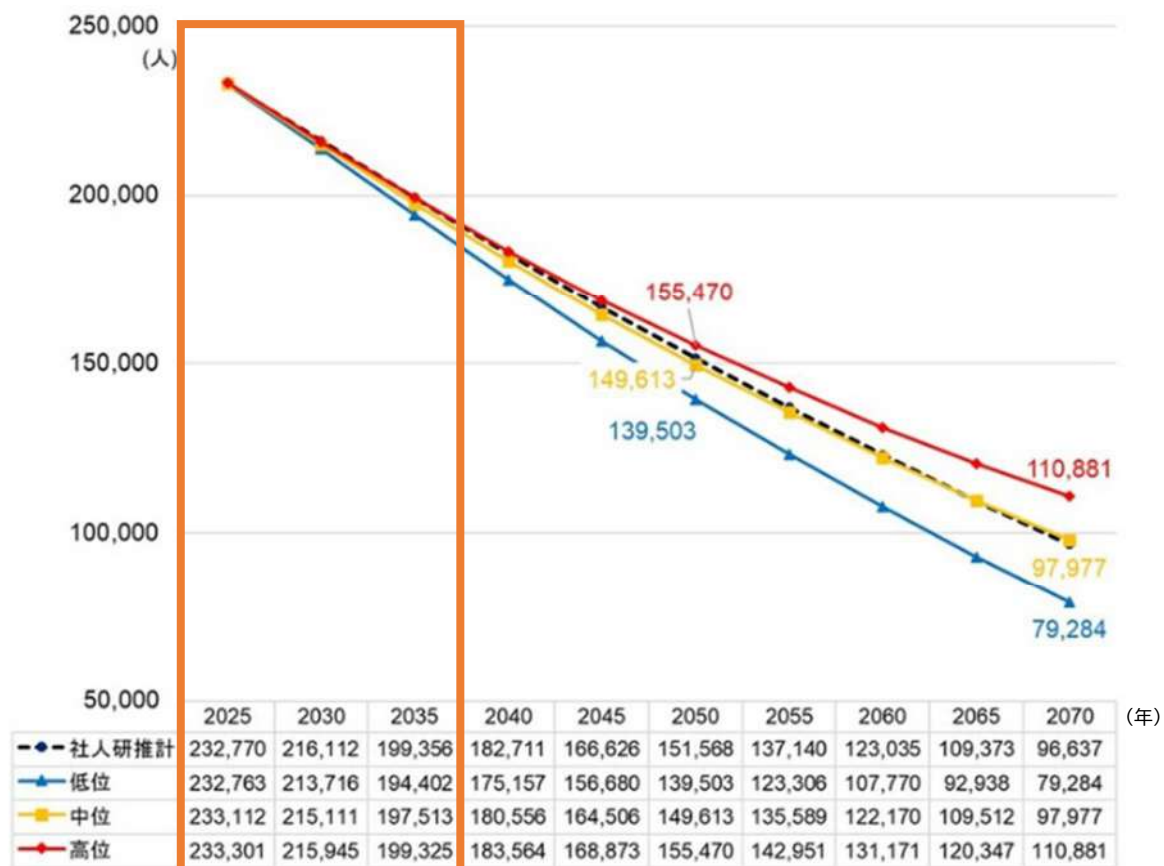
(出典) 【女性人口】総務省「国勢調査」（2024（令和 6）年については函館市「住民基本台帳」）

【合計特殊出生率】函館市「保健所事業概要」

函館市の合計特殊出生率は低下傾向にあり、全国や北海道を下回っています。また、15 歳から 44 歳の女性人口も減少が続いています。

【図 4：計画期間における人口の将来推計】

検討資料 P.5 2-3-(1) 人口の推移と将来推計



(出典) 函館市「人口ビジョン」17 ページ

函館市の将来人口は、いずれの推計においても減少が続く見込みです。合計特殊出生率や純移動率の改善状況によって、将来の減少幅は異なります。

《推計の考え方》

○ 低位推計

合計特殊出生率、純移動率とも現状のまま推移すると仮定

○ 中位推計

2070（令和 52）年に合計特殊出生率が、本市独自に算出した市民の希望出生率となる 1.77 を実現し、純移動率を 1980（昭和 55）年以降の実績の最高値を達成すると仮定

○ 高位推計

2050（令和 32）年までに中位推計の 2070（令和 52）年の状況を達成し、かつ 2070（令和 52）年までに合計特殊出生率が人口置換水準である 2.07、純移動率のマイナスが解消すると仮定

【図5：総人口および年齢3区分別人口の将来推計（中位）】

検討資料 P.5 2-3-(1) 人口の推移と将来推計



（出典）函館市「人口ビジョン」19 ページ

函館市の総人口は、今後も減少が見込まれます。生産年齢人口と年少人口は減少を続けますが、生産年齢人口は2050（令和32）年には2020（令和2）年比で2分の1まで減少します。また、老年人口は比較的緩やかな減少で推移します。

【図 6：年齢別転入・転出状況】

検討資料 P.5 2-3-(1) 人口の推移と将来推計



(出典) 函館市「住民基本台帳 (2024 年)」

年齢別の転出入状況を見ると、20 代を中心に転出数が転入数を大きく上回っており、若年層において大幅な転出超過となっています。

【図 7：転入数・転出数の推移】

検討資料 P.5 2-3-(1) 人口の推移と将来推計

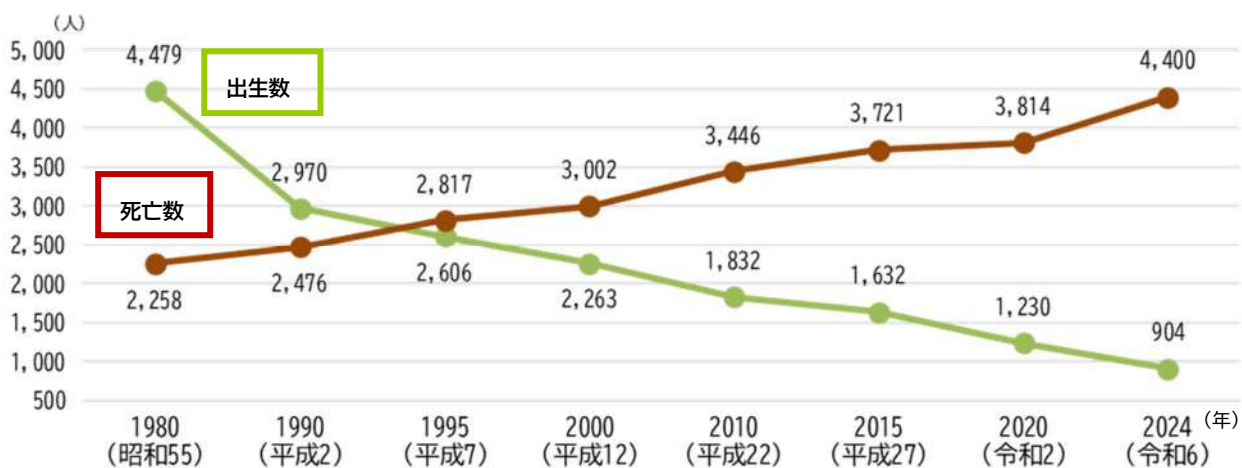


(出典) 函館市「住民基本台帳」

函館市の転入数および転出数はともに減少傾向にあります。一貫して転出数が転入数を上回る転出超過の状態が続いています。

【図 8：出生数・死亡数の推移】

検討資料 P.5 2-3-(1) 人口の推移と将来推計

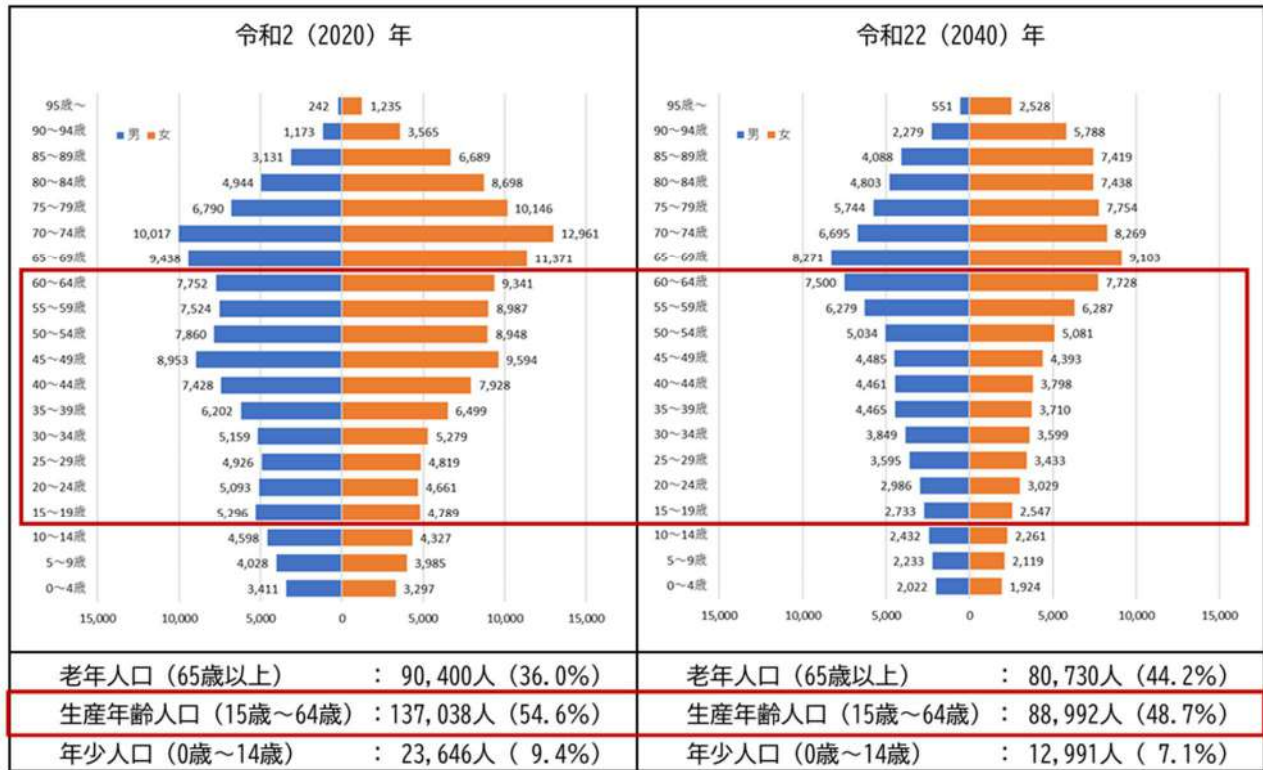


(出典) 函館市「住民基本台帳」

函館市の出生数は減少を続けている一方で、死亡数は増加傾向にあり、死亡数が出生数を上回る自然減が拡大しています。

【図9：将来人口推計・人口ピラミッド】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業



(出典)：総務省「国勢調査(2020年)」，国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」(函館市「経済振興プラン」9ページより引用)

地域産業の担い手とも言える生産年齢人口(15歳～64歳)が急激に減少し，令和22(2040)年には全体の5割を下回ることが見込まれています。

【図 1 0 : 農業就業者数および経営耕地面積の推移】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業

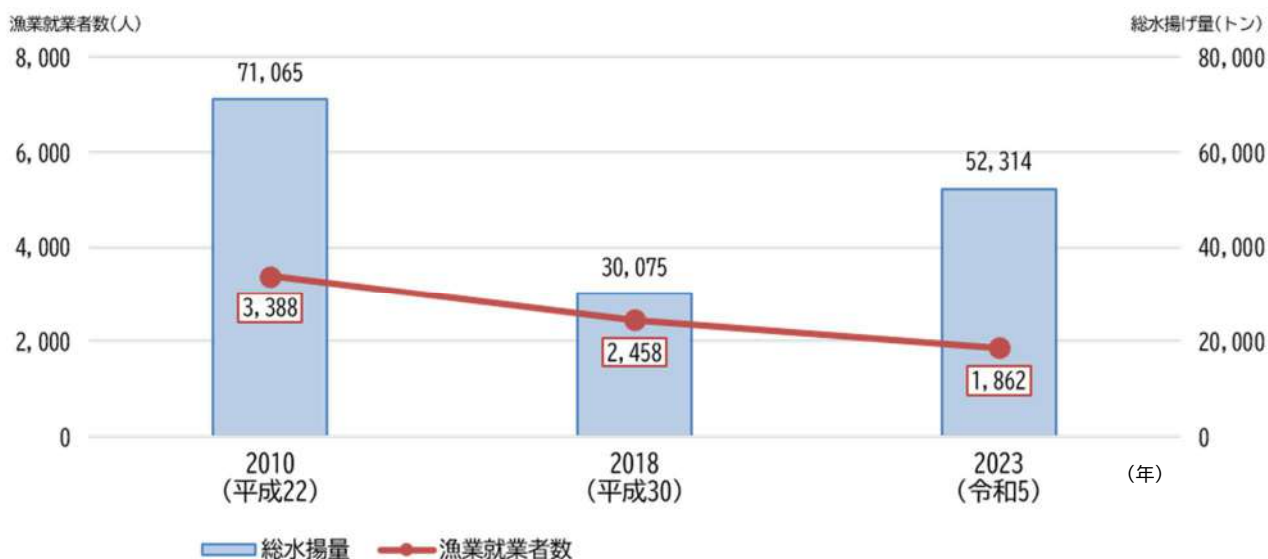


(出典) 農林水産省「農林業センサス」

函館市の農業就業者数および経営耕地面積は、一貫して減少傾向にあります。

【図 1 1 : 漁業就業者数および総水揚量の推移】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業



(出典) 【総水揚量】北海道水産現勢

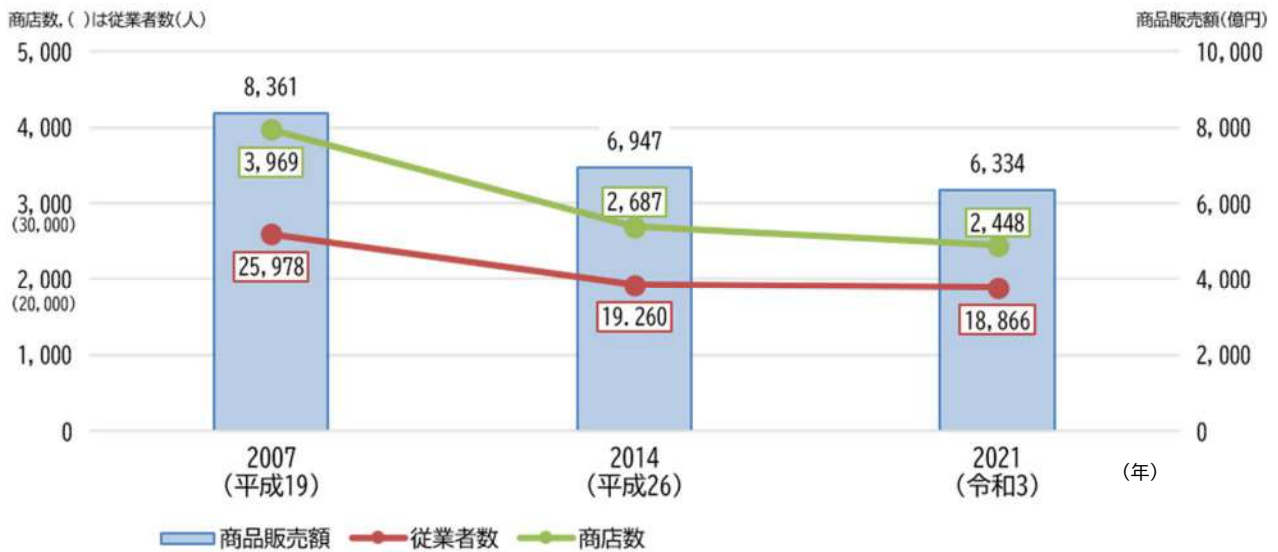
【漁業就業者数】総務省「国勢調査 (2010 年)」

農林水産省「漁業センサス」(2018 年, 2023 年)

函館市の漁業就業者数は減少を続けており、総水揚量についても減少傾向にあります。

【図 1 2：卸売業・小売業の商店数，従業員数，商品販売額の推移】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業

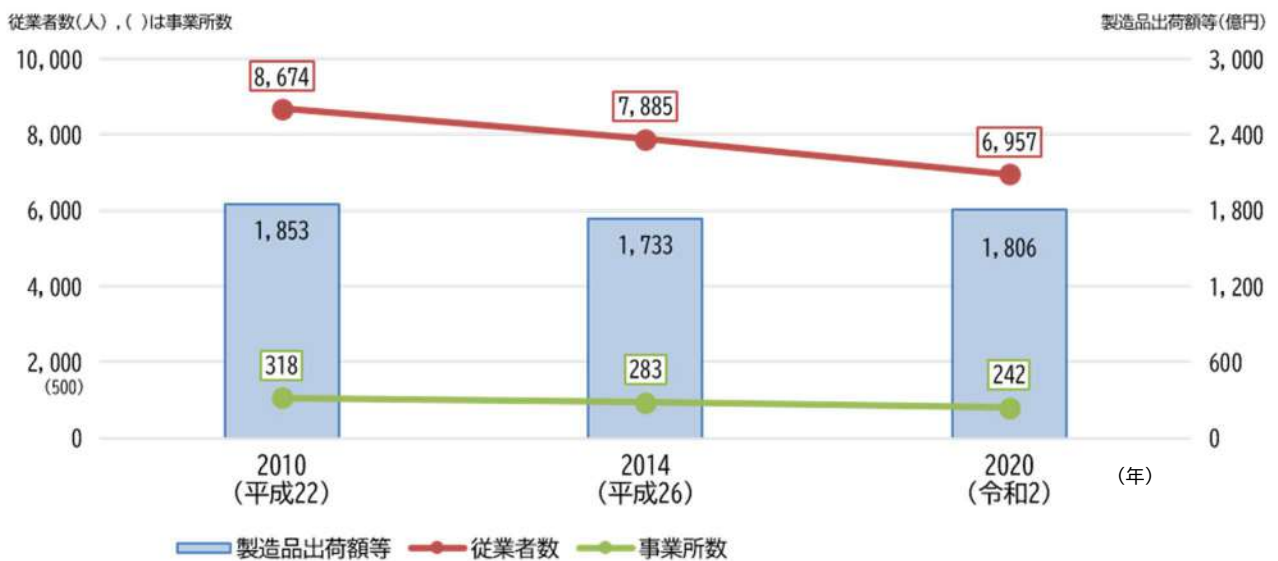


(出典) 経済産業省「商業統計」「経済センサス」

函館市の卸売業・小売業における商店数，従業員数，商品販売額はいずれも，減少傾向が続いています。

【図 1 3：製造業の事業所数，従業員数，製造品出荷額等の推移】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業



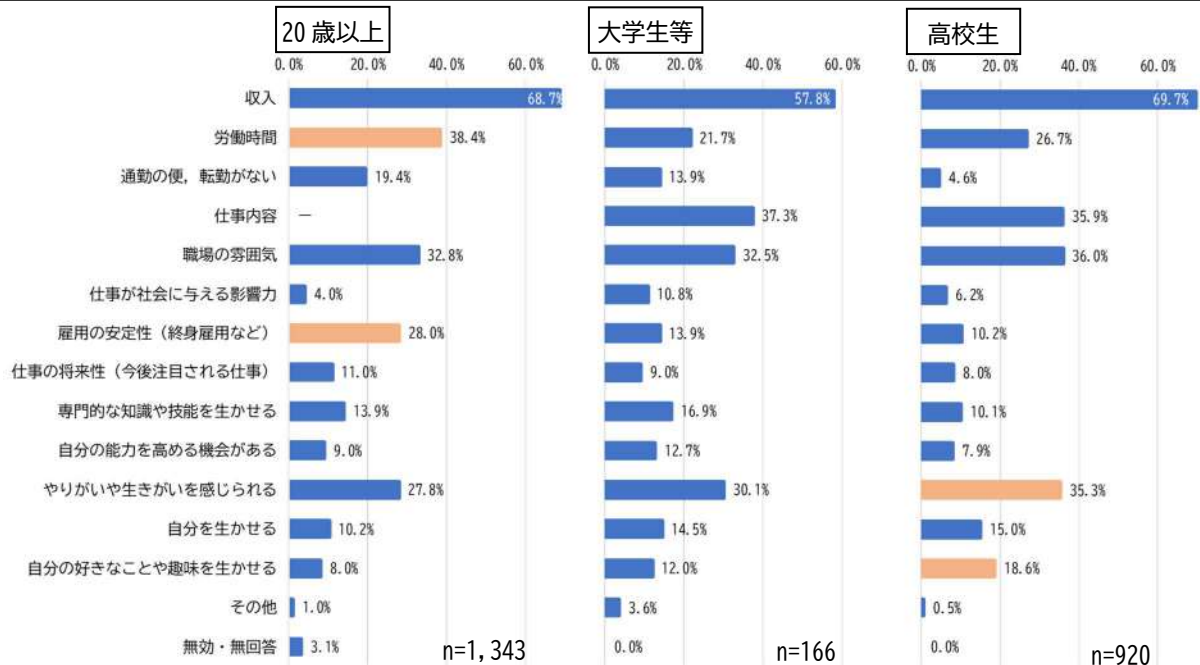
(出典) 経済産業省「工業統計」「経済センサス」

函館市の製造業における事業所数と従業員数は，一貫して減少を続けていますが，製造品出荷額等は，近年横ばいの状態が続いています。

【図 1 4：職業選択等についてのアンケート結果】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業

職業を選択する際に重視した（したい）点について、あなたの考えに最も近いものを3つまで選んで番号に○をつけてください。（複数回答）



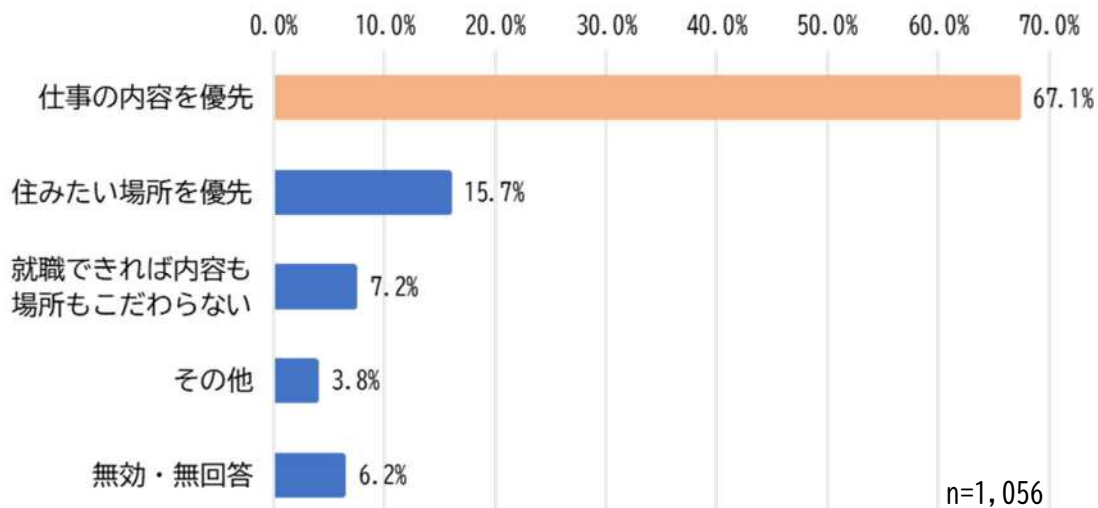
項目	20歳以上 (n=1,343)		大学生等 (n=166)		高校生 (n=920)	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
収入	923 人	68.7%	96 人	57.8%	641 人	69.7%
労働時間	516 人	38.4%	36 人	21.7%	246 人	26.7%
通勤の便、転勤がない	261 人	19.4%	23 人	13.9%	42 人	4.6%
仕事内容			62 人	37.3%	330 人	35.9%
職場の雰囲気	440 人	32.8%	54 人	32.5%	331 人	36.0%
仕事に社会に与える影響力	54 人	4.0%	18 人	10.8%	57 人	6.2%
雇用の安定性（終身雇用など）	376 人	28.0%	23 人	13.9%	94 人	10.2%
仕事の将来性（今後注目される仕事）	148 人	11.0%	15 人	9.0%	74 人	8.0%
専門的な知識や技能を生かせる	187 人	13.9%	28 人	16.9%	93 人	10.1%
自分の能力を高める機会がある	121 人	9.0%	21 人	12.7%	73 人	7.9%
やりがいや生きがいを感じられる	374 人	27.8%	50 人	30.1%	325 人	35.3%
自分を生かせる	137 人	10.2%	24 人	14.5%	138 人	15.0%
自分の好きなことや趣味を生かせる	107 人	8.0%	20 人	12.0%	171 人	18.6%
その他	14 人	1.0%	6 人	3.6%	5 人	0.5%
無効・無回答	42 人	3.1%	0 人	0.0%	0 人	0.0%

（出典）函館市「令和6年度 地方創生に関するアンケート調査

地域幸福度（Well-Being）指標に関するアンケート調査 結果報告書」32 ページ

すべての区分で「収入」が最も高くなっていますが、20歳以上では「労働時間」と「雇用の安定性（終身雇用など）」、高校生では「やりがいや生きがいを感じられる」と「自分の好きなことや趣味を生かせる」が、他の区分と比較して高くなっています。

就業した（する）際に重視した（したい）点について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。



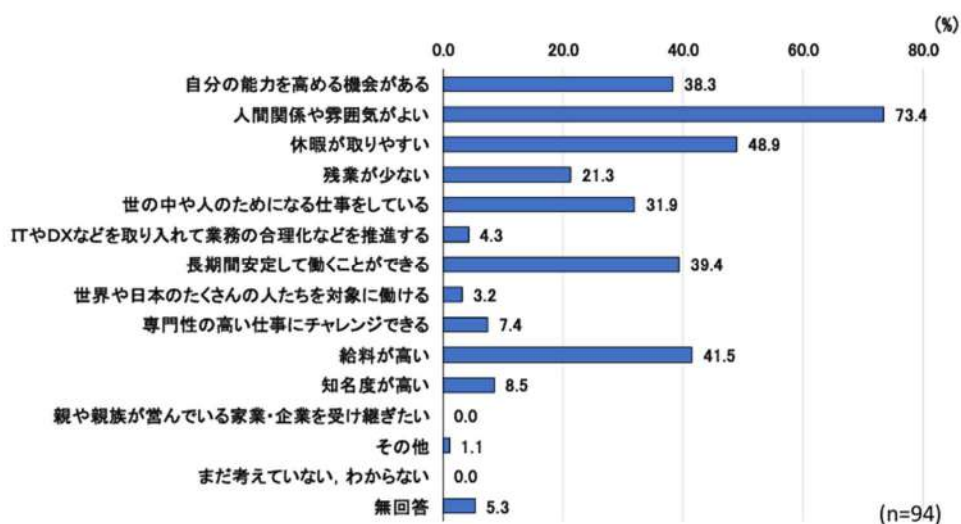
区分	仕事の内容を優先	住みたい場所を優先	就職できれば 内容も場所も こだわらない	その他	無効・ 無回答	合計
20 歳以上	709人 67.1%	166人 15.7%	76人 7.2%	40人 3.8%	65人 6.2%	1,056人 100%

※ インターネット上の調査で、設定の不備により設問が表示されなかった 287 名分の回答を除く
 （出典）函館市「令和 6 年度 地方創生に関するアンケート調査
 地域幸福度（Well-Being）指標に関するアンケート調査 結果報告書」33 ページ

「仕事の内容を優先」が 67.1%と最も高く、次の「住みたい場所を優先」の 15.7%を大幅に上回っています。

あなたは将来どんな職場で働きたいですか。（複数回答）※卒業後の進路で就職を選択した方のみ

区分	総数	
自分の能力を高める機会がある	36 人	38.3%
人間関係や雰囲気がよい	69 人	73.4%
休暇が取りやすい	46 人	48.9%
残業が少ない	20 人	21.3%
世の中や人のためになる仕事をしている	30 人	31.9%
ITやDXなどを取り入れて業務の合理化などを推進する	4 人	4.3%
長期間安定して働くことができる	37 人	39.4%
世界や日本のたくさんの人たちを対象に働ける	3 人	3.2%
専門性の高い仕事にチャレンジできる	7 人	7.4%
給料が高い	39 人	41.5%
知名度が高い	8 人	8.5%
親や親族が営んでいる家業・企業を受け継ぎたい	0 人	0.0%
その他	1 人	1.1%
まだ考えていない、わからない	0 人	0.0%
無回答	5 人	5.3%
合計	305 人	



（出典）函館市「令和4年度 若者の地元就職促進事業調査結果報告書」14 ページ

若者が将来働きたい職場は、「人間関係や雰囲気がよい職場」が73.4%と最も高く、次いで「休暇が取りやすい職場」が48.9%、「給料が高い職場」が41.5%となっています。

【図 1 5：有効求人倍率】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業



(出典) 北海道労働局「雇用ニュースはこだて」

函館公共職業安定所管内の有効求人倍率は、全国や北海道を下回る水準で推移しており、近年は1倍を下回る状況が続いています。

【図 1 6：労働力人口の推移】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業



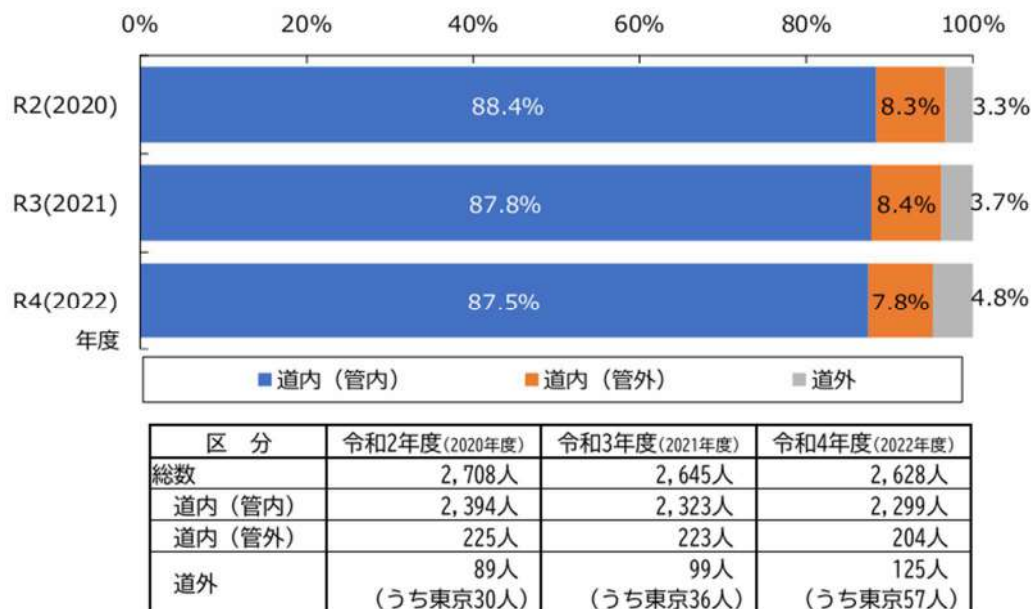
(出典) 総務省「国勢調査」(函館市「人口ビジョン」6ページより引用)

函館市の労働力人口(15歳以上の人口のうち「就業者」と「完全失業者」を合わせたもの)は、1995(平成7)年以降減少を続けています。一方で、完全失業率は全国や北海道を上回る水準で推移しています。

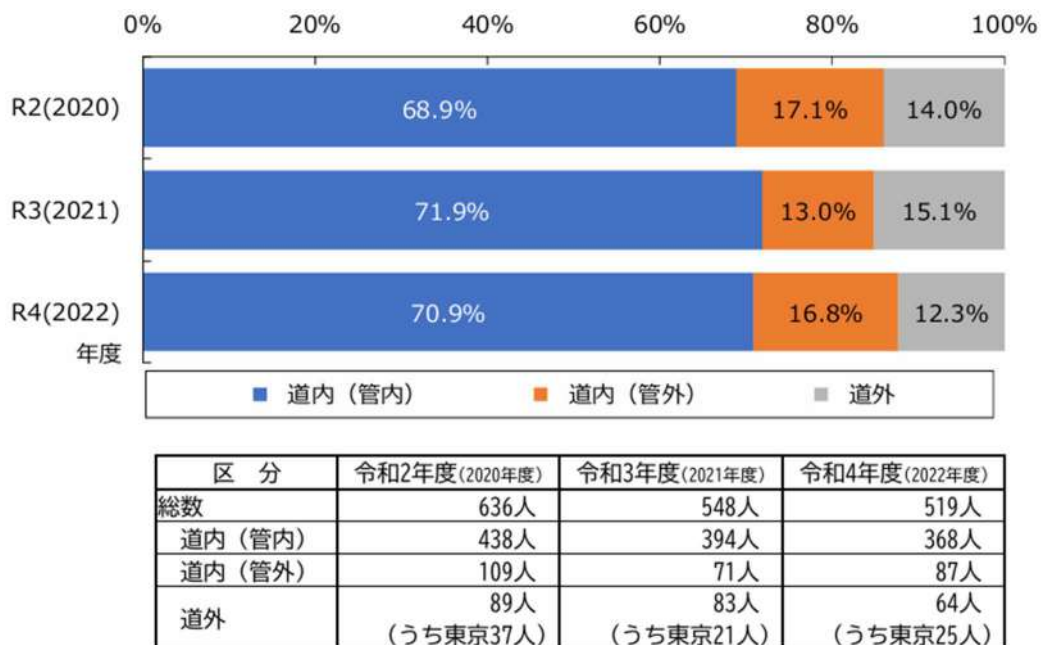
【図 1 7：函館公共職業安定所管内の地域別就職状況】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業

・函館公共職業安定所管内の地域別就職状況〔常用〕



・函館公共職業安定所管内の地域別就職状況〔新規学校卒業者(高等学校)〕

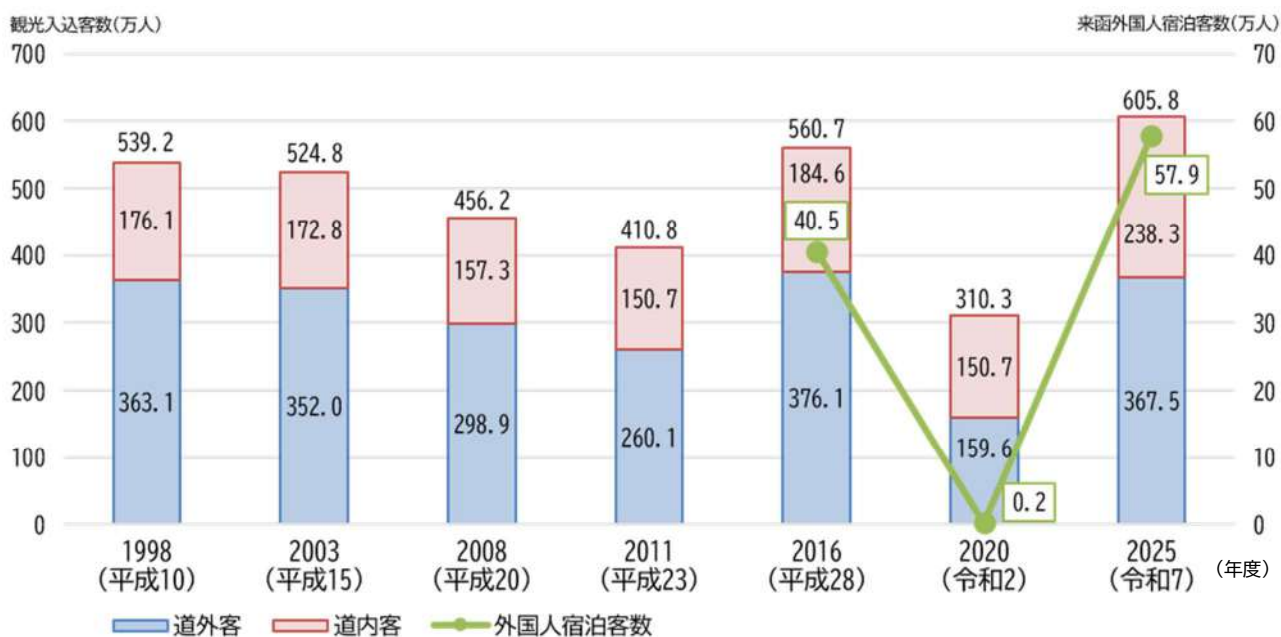


(出典) 函館市「統計書 令和5年版」(函館市「経済振興プラン」15ページより引用)

新規学校卒業者（高等学校）の地域別就職状況は、道内（管内）への就職率が70%前後で推移しており、常用と比較すると地元への就職率が低い状況にあります。

【図 1 8：観光入込客数推計の推移】

検討資料 P.5 2-3-(2) 経済・産業

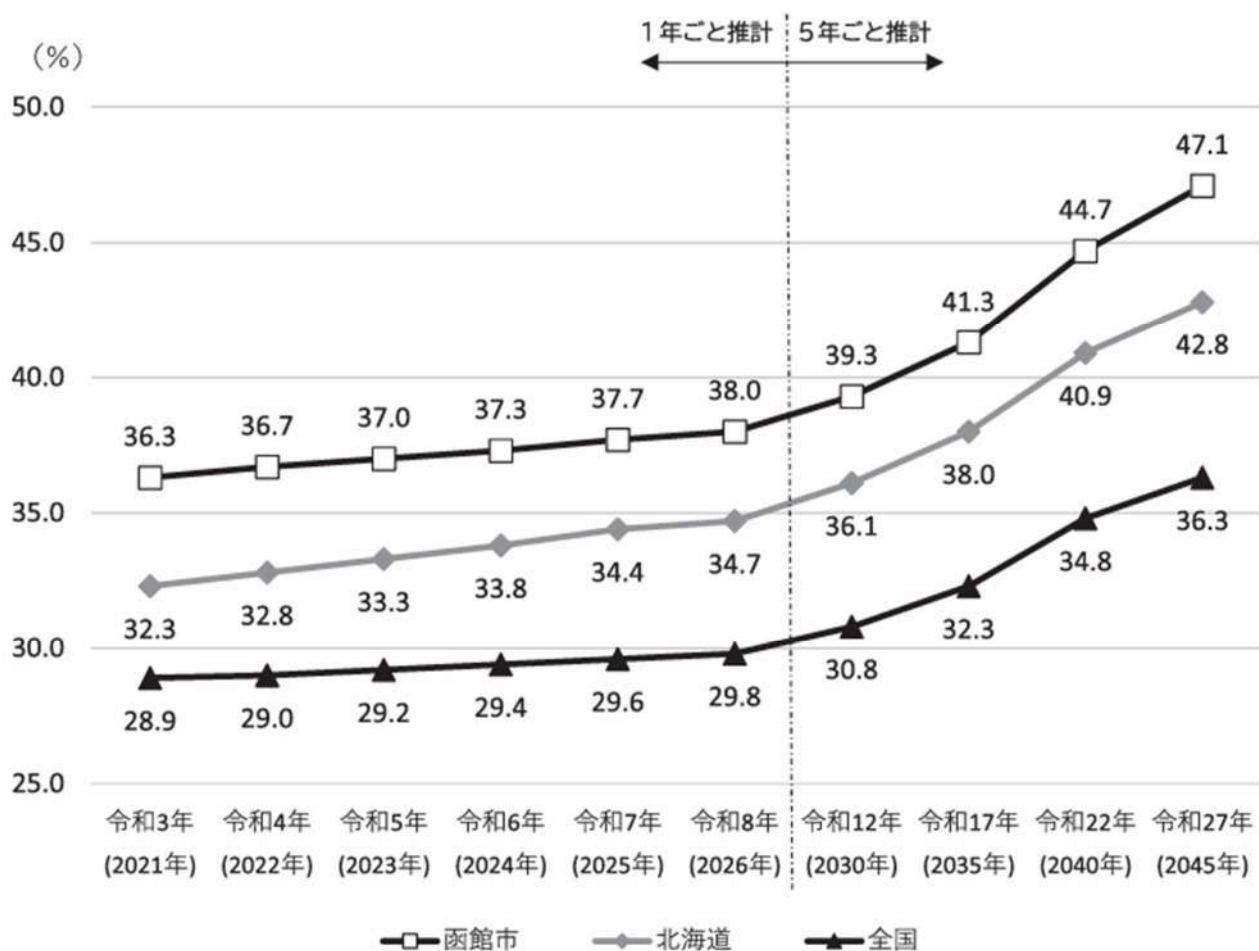


(出典) 函館市「来函観光入込客数推計」

観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症の影響により 2020（令和 2）年度に大きく減少しましたが、その後回復し、2025（令和 7）年度には 2 年連続で過去最多を更新しました。

【図 1 9：全国，北海道と比較した高齢化率の推移】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活

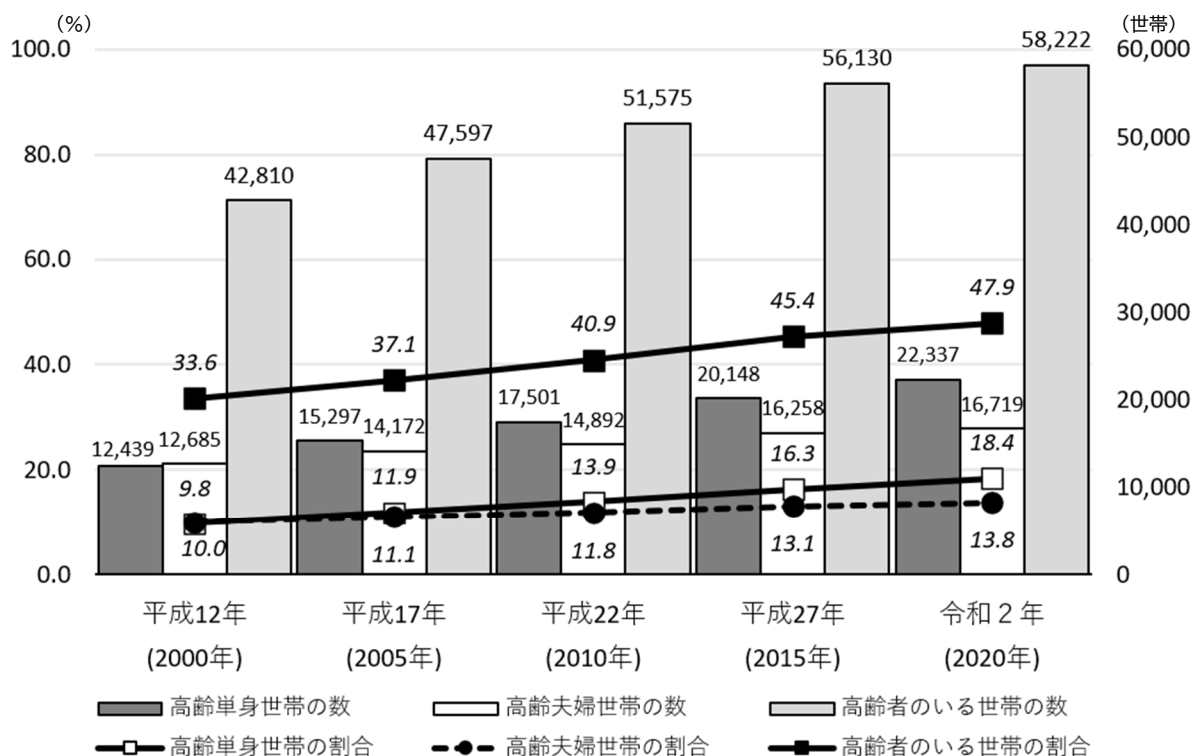


(出典) 函館市，国立社会保障・人口問題研究所による推計値（全国：令和 5 年，全道：平成 30 年（2018 年）推計）（函館市「第 10 次函館市高齢者保健福祉計画・第 9 期函館市介護保険事業計画（令和 6（2024）年度～令和 8（2026）年度）」 6 ページより引用）

函館市の高齢化率は全国，北海道と比べて高く，今後も上昇が見込まれています。

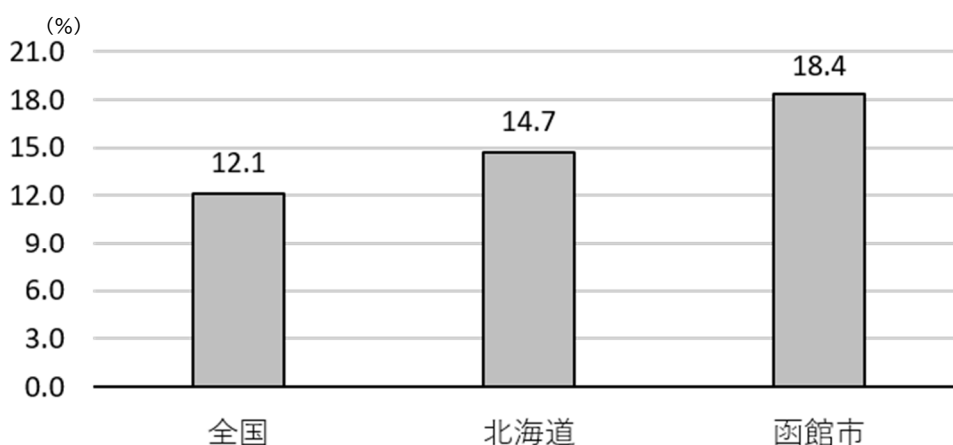
【図 20：高齢者の居住状況】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活



(出典) 総務省「国勢調査」(函館市「第 10 次函館市高齢者保健福祉計画・第 9 期函館市介護保険事業計画 (令和 6 (2024) 年度～令和 8 (2026) 年度)」10 ページより引用)

《一般世帯に占める高齢単身世帯の割合の比較》



(出典) 総務省「国勢調査 (2020 年)」(函館市「第 10 次函館市高齢者保健福祉計画・第 9 期函館市介護保険事業計画 (令和 6 (2024) 年度～令和 8 (2026) 年度)」10 ページより引用)

函館市の高齢単身世帯の割合は増加傾向にあり、令和 2 (2020) 年国勢調査の結果では、一般世帯の 18.4% を高齢単身世帯が占め、国や北海道を上回る高い水準にあります。

【図 2 1 : 出産・子育てについてのアンケート結果】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活

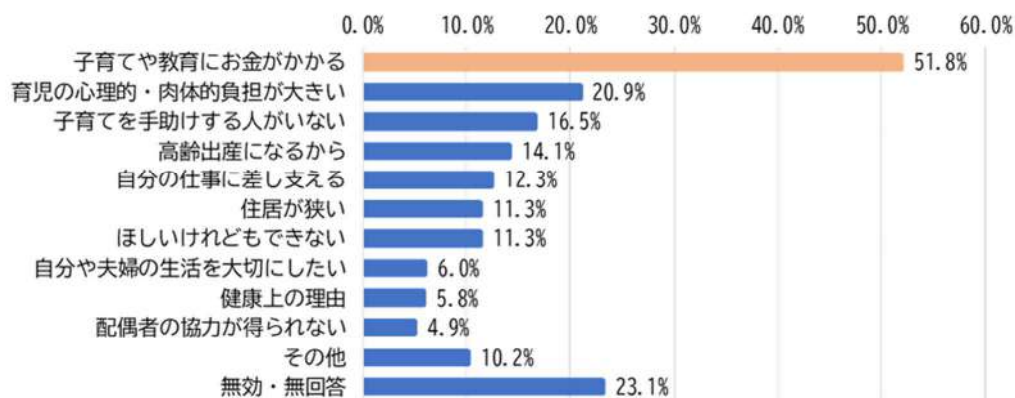
※函館市「令和 6 年度 地方創生に関するアンケート調査 地域幸福度 (Well-Being) 指標に関するアンケート調査 結果報告書」(20~23 ページ) より一部抜粋

「理想的な子どもの数」が、「現在の子どもの数」より多い理由または「理想的な子どもの数」が 0 人である理由は何ですか。

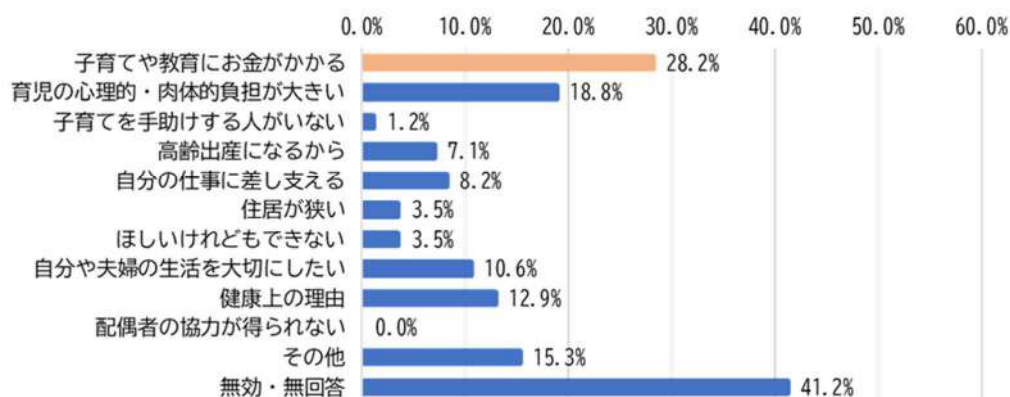
あなたの考えに近いものを 3 つまで選んで番号に○をつけてください。(複数回答)

(回答対象者: 2-②で、「理想的な子どもの数」が、「現在の子どもの数」より多い人または「理想的な子どもの数」が 0 人の人)

【「理想的な子どもの数」が「現在の子どもの数」より多い人 (n=689)】

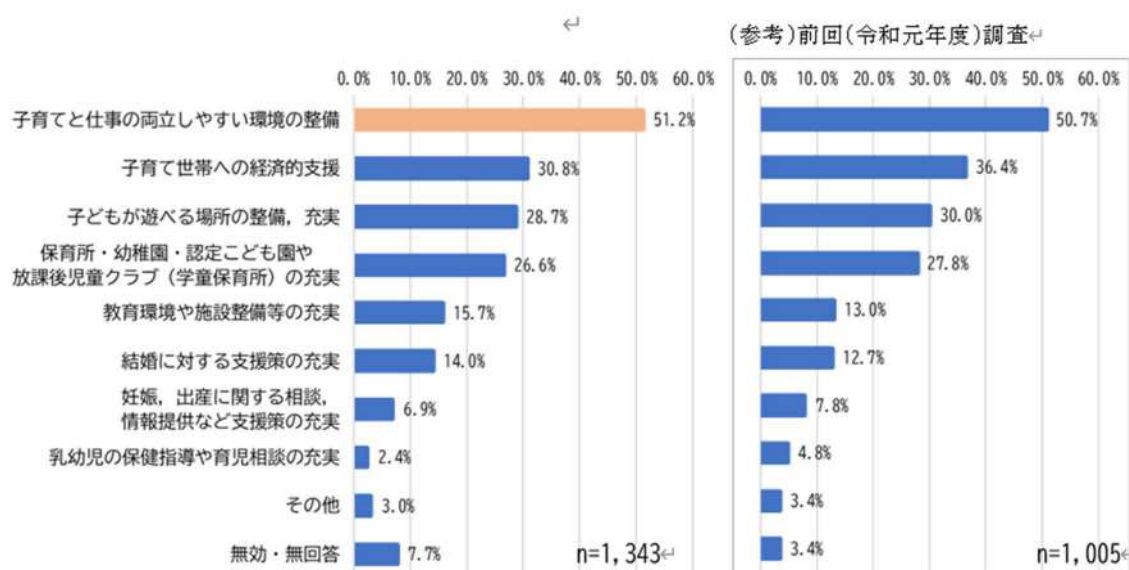


【「理想的な子どもの数」が 0 人の人 (n=85)】

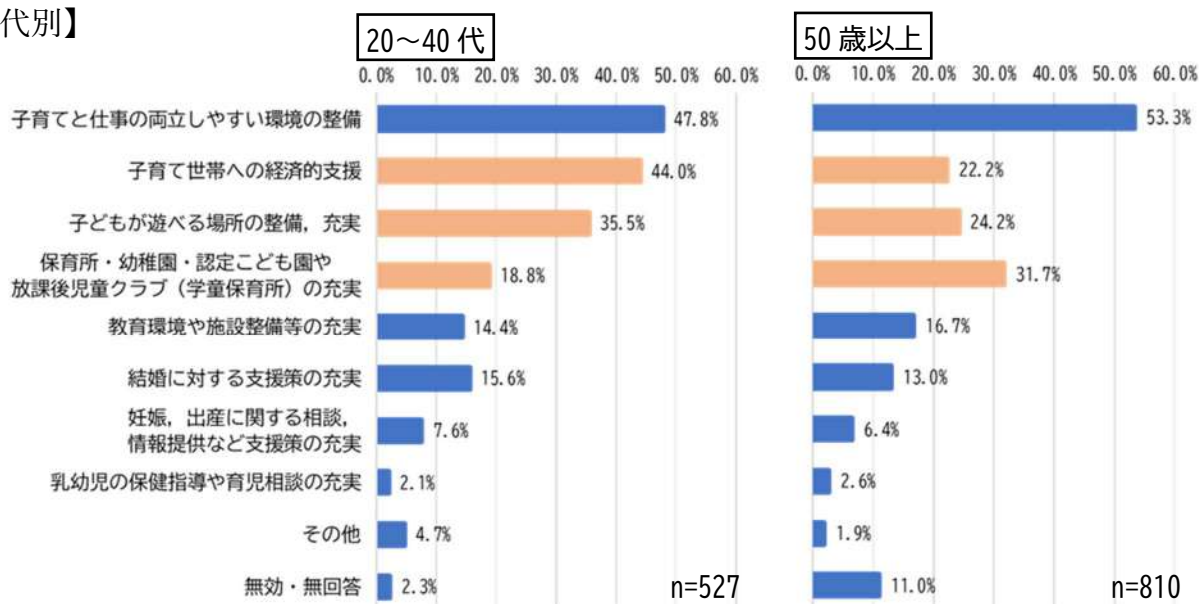


「理想的な子どもの数」が「現在の子どもの数」より多い人では、「子育てや教育にお金がかかる」が 51.8%と最も高くなっています。「理想的な子どもの数」が 0 人の人でも、「子育てや教育にお金がかかる」が 28.2%と、無効・無回答を除き最も高くなっていますが、前者と比べると 20 ポイント以上低くなっています。

安心して子どもを産み、子育てできる環境を整備するために、どのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。主なものを2つまで選んで番号に○をつけてください。(複数回答)



【年代別】



「子育てと仕事の両立しやすい環境の整備」が51.2%と最も高く、次に「子育て世帯への経済的支援」が30.8%、「子どもが遊べる場所の整備、充実」が28.7%と続いています。

年代別では、「子育て世帯への経済的支援」や「子どもが遊べる場所の整備、充実」を選択する割合が20～40代で高く、50歳以上が低くなっており、それに対して「保育所・幼稚園・認定こども園や放課後児童クラブ(学童保育所)の充実」については、20～40代で低く、50歳以上で高くなっているなど、世代間で差が生じています。

【「理想的な子どもの数」が、「現在の子どもの数」より多い人(n=689人)が思っている、安心して子どもを産み、子育てできる環境を整備するために、取り組むべきこと。(男女別、年代別)】

《男性》

年代	子育てと仕事の両立しやすい環境の整備	子育て世帯への経済的支援	子どもが遊べる場所の整備、充実	保育所・幼稚園・認定こども園や放課後児童クラブ(学童保育所)の充実	教育環境や施設整備等の充実	結婚に対する支援策の充実	妊娠、出産に関する相談、情報提供など支援策の充実	乳幼児の保健指導や育児相談の充実	その他	n
20代	13人 36.1%	15人 41.7%	12人 33.3%	12人 33.3%	2人 5.6%	10人 27.8%	4人 11.1%	0人 0.0%	1人 2.8%	36人
30代	31人 46.3%	35人 52.2%	24人 35.8%	9人 13.4%	11人 16.4%	15人 22.4%	4人 6.0%	0人 0.0%	5人 7.5%	67人
40代	26人 52.0%	13人 26.0%	16人 32.0%	11人 22.0%	10人 20.0%	12人 24.0%	7人 14.0%	3人 6.0%	0人 0.0%	50人
50代	22人 44.9%	14人 28.6%	14人 28.6%	13人 26.5%	12人 24.5%	10人 20.4%	5人 10.2%	0人 0.0%	1人 2.0%	49人
60代	28人 59.6%	16人 34.0%	15人 31.9%	12人 25.5%	8人 17.0%	6人 12.8%	1人 2.1%	2人 4.3%	0人 0.0%	47人
70代	30人 53.6%	24人 42.9%	13人 23.2%	25人 44.6%	3人 5.4%	12人 21.4%	3人 5.4%	0人 0.0%	0人 0.0%	56人
80歳以上	13人 76.5%	5人 29.4%	1人 5.9%	5人 29.4%	6人 35.3%	2人 11.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	17人
20歳以上	163人 50.6%	122人 37.9%	95人 29.5%	87人 27.0%	52人 16.1%	67人 20.8%	24人 7.5%	5人 1.6%	7人 2.2%	322人

《女性》

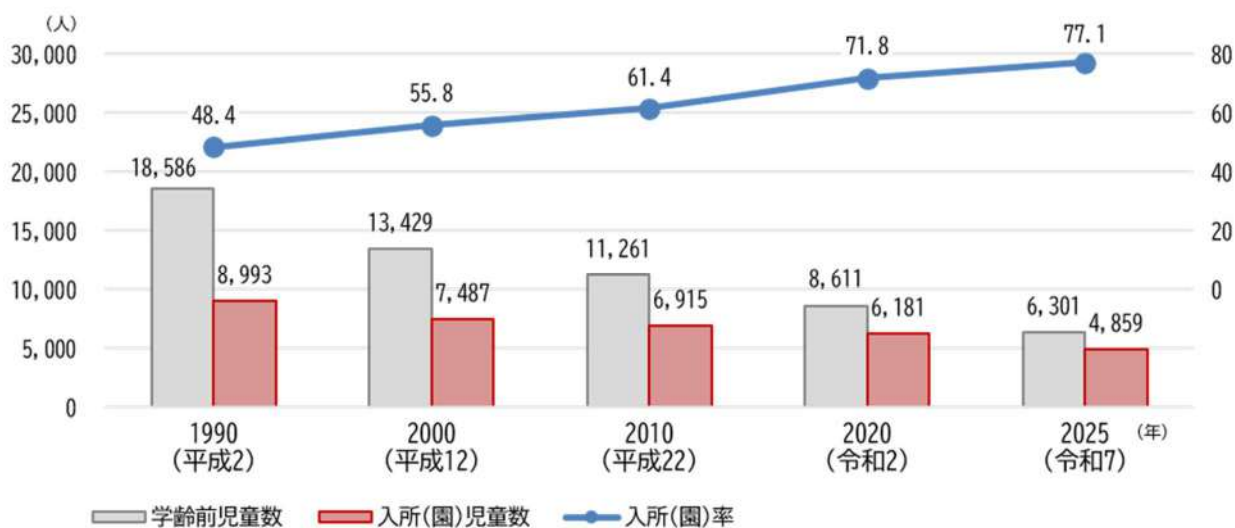
年代	子育てと仕事の両立しやすい環境の整備	子育て世帯への経済的支援	子どもが遊べる場所の整備、充実	保育所・幼稚園・認定こども園や放課後児童クラブ(学童保育所)の充実	教育環境や施設整備等の充実	結婚に対する支援策の充実	妊娠、出産に関する相談、情報提供など支援策の充実	乳幼児の保健指導や育児相談の充実	その他	n
20代	31人 47.0%	34人 51.5%	24人 36.4%	13人 19.7%	4人 6.1%	10人 15.2%	7人 10.6%	1人 1.5%	2人 3.0%	66人
30代	28人 40.0%	34人 48.6%	29人 41.4%	11人 15.7%	14人 20.0%	10人 14.3%	4人 5.7%	3人 4.3%	1人 1.4%	70人
40代	38人 58.5%	22人 33.8%	19人 29.2%	16人 24.6%	12人 18.5%	5人 7.7%	5人 7.7%	1人 1.5%	1人 1.5%	65人
50代	25人 45.5%	12人 21.8%	19人 34.5%	17人 30.9%	13人 23.6%	3人 5.5%	4人 7.3%	6人 10.9%	2人 3.6%	55人
60代	34人 68.0%	5人 10.0%	19人 38.0%	17人 34.0%	12人 24.0%	4人 8.0%	2人 4.0%	2人 4.0%	0人 0.0%	50人
70代	23人 60.5%	9人 23.7%	2人 5.3%	19人 50.0%	5人 13.2%	4人 10.5%	4人 10.5%	2人 5.3%	1人 2.6%	38人
80歳以上	19人 82.6%	3人 13.0%	4人 17.4%	9人 39.1%	1人 4.3%	3人 13.0%	4人 17.4%	0人 0.0%	1人 4.3%	23人
20歳以上	198人 54.0%	119人 32.4%	116人 31.6%	102人 27.8%	61人 16.6%	39人 10.6%	30人 8.2%	15人 4.1%	8人 2.2%	367人

男女ともに20代と30代は「子育て世帯への経済的支援」が最も高くなっており、40代以降は「子育てと仕事の両立しやすい環境の整備」が最も高くなっています。

また、「結婚に対する支援策の充実」を選択する割合は、女性に比べて男性が高くなっています。

【図 2 2：学齢前児童数，保育所・幼稚園等の入所（園）児童数と率の推移】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活

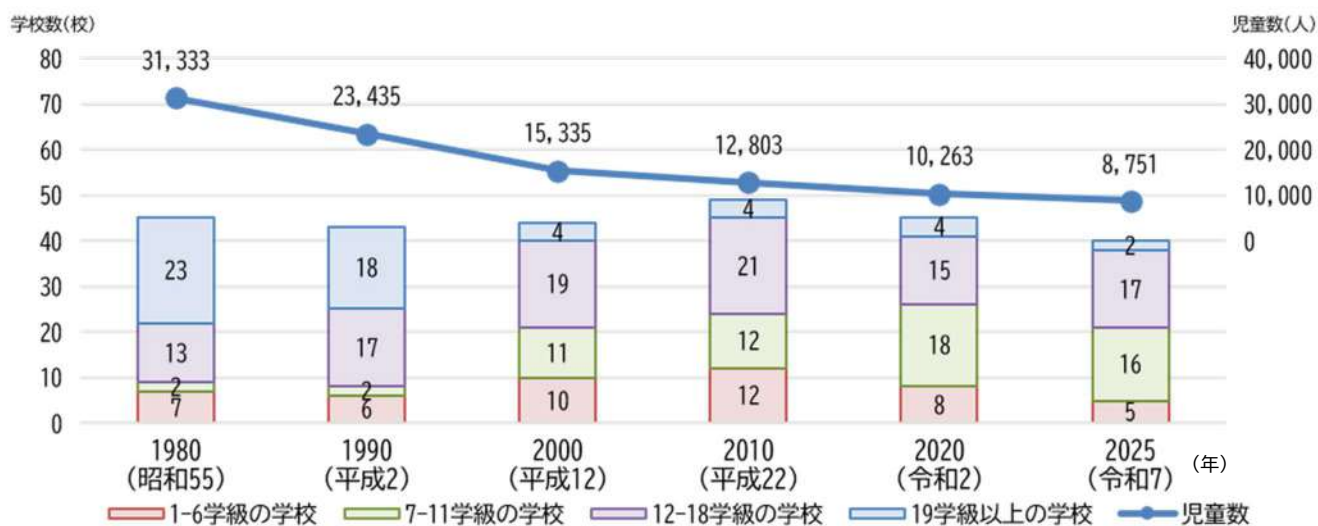


(出典) 函館市「子ども未来部の概要」「社会福祉の概要」

函館市の学齢前児童数および入所（園）児童数は減少を続けていますが，入所（園）率は上昇傾向にあります。

【図 2 3：小学校の児童数ならびに学校数の推移】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活



(出典) 文部科学省「学校基本調査」(2000 (平成 12) 年以前は合併 4 町村を含まない)

函館市の小学校の児童数は減少が続いています。学校数も市町村合併による増加を経て，その後は再び減少傾向にあります。

【図24：医療施設数，病床数および人口10万人あたりの率】

検討資料P.6 2-3-(3) 市民生活

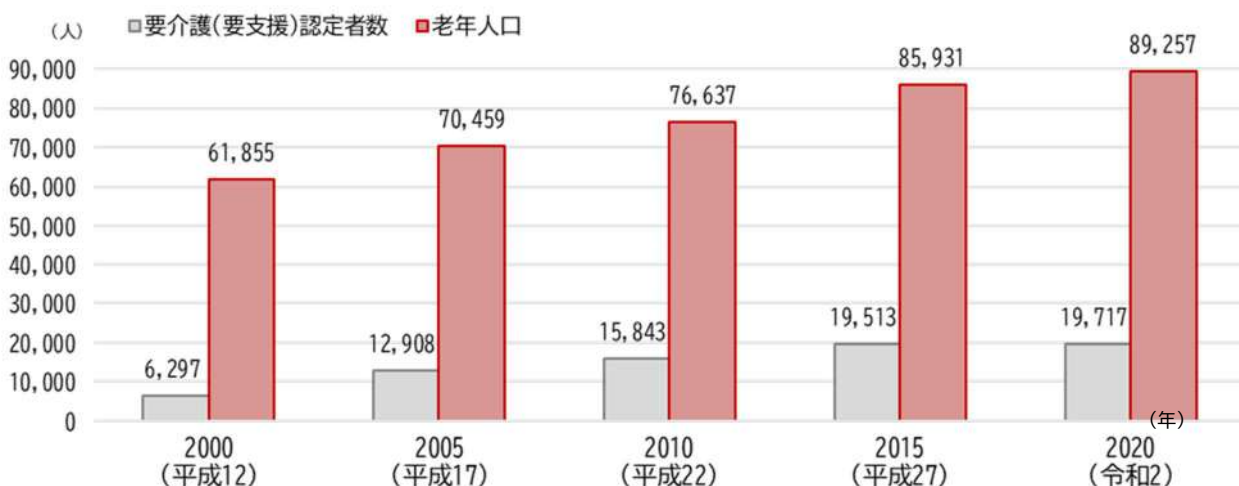
区 分		施設数	人口10万人あたりの施設数		
			函館市	北海道	全 国
病 院		26	11.0	10.4	6.5
一 般 診 療 所		197	83.1	67.5	85.0
歯 科 診 療 所		119	50.2	53.5	53.6
病床 (病院)	精 神 病 床	1,243	524.5	380.6	255.4
	感 染 症 病 床	6	2.5	1.9	1.6
	結 核 病 床	10	4.2	2.1	2.8
	療 養 病 床	800	337.6	359.8	216.9
	一 般 病 床	3,763	1,587.8	1,010.4	710.6
病 床 (一 般 診 療 所)		215	90.7	93.0	58.5

(出典) 函館市「令和7年度版 保健所事業概要」2024(令和6)年10月1日時点
厚生労働省「令和6(2024)年医療施設(動態)調査・病院報告の概況」

函館市の人口10万人あたりの病院数や、一般病床をはじめとする多くの病床数は、北海道および全国を上回る水準となっています。一方で、一般診療所の人口10万人あたりの施設数は北海道を上回るものの全国を下回っており、歯科診療所の人口10万人あたりの施設数は北海道および全国を下回っています。

【図25：要介護（要支援）認定者数の推移】

検討資料P.6 2-3-(3) 市民生活



(出典) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」、総務省「国勢調査」

函館市の要介護（要支援）認定者数は、老年人口の増加に伴い、増加傾向が続いています。

【図 2 6 : 身体障害者手帳の交付者数等の比較】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活

(単位:人)

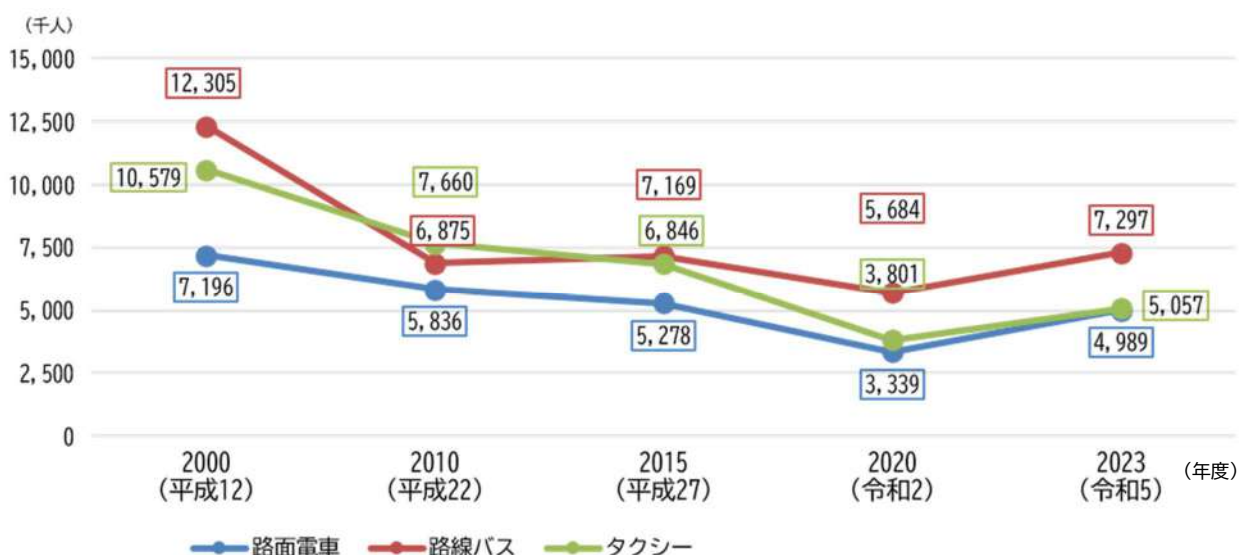
区 分	令和 2 年度(2020 年度) (A)	令和 5 年度(2023 年度) (B)	増 減 (B-A)
身体障害者手帳	12,417	11,581	▲836
療育手帳	3,049	3,173	124
精神障害者保健福祉手帳	3,046	3,180	134
難病	2,298	2,497	199
計	20,810	20,431	▲379

(出典) 函館市「第 7 期函館市障がい福祉計画 (令和 6 年度(2024 年度)~令和 8 年度(2026 年度))」10 ページ

令和 2 (2020) 年度と令和 5 (2023) 年度を比較すると、身体障害者手帳の交付者数は減少しているのに対し、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳および難病（特定医療費（指定難病）受給者証交付者数等）は増加しています。

【図 2 7 : 交通機関別利用者数の推移】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活

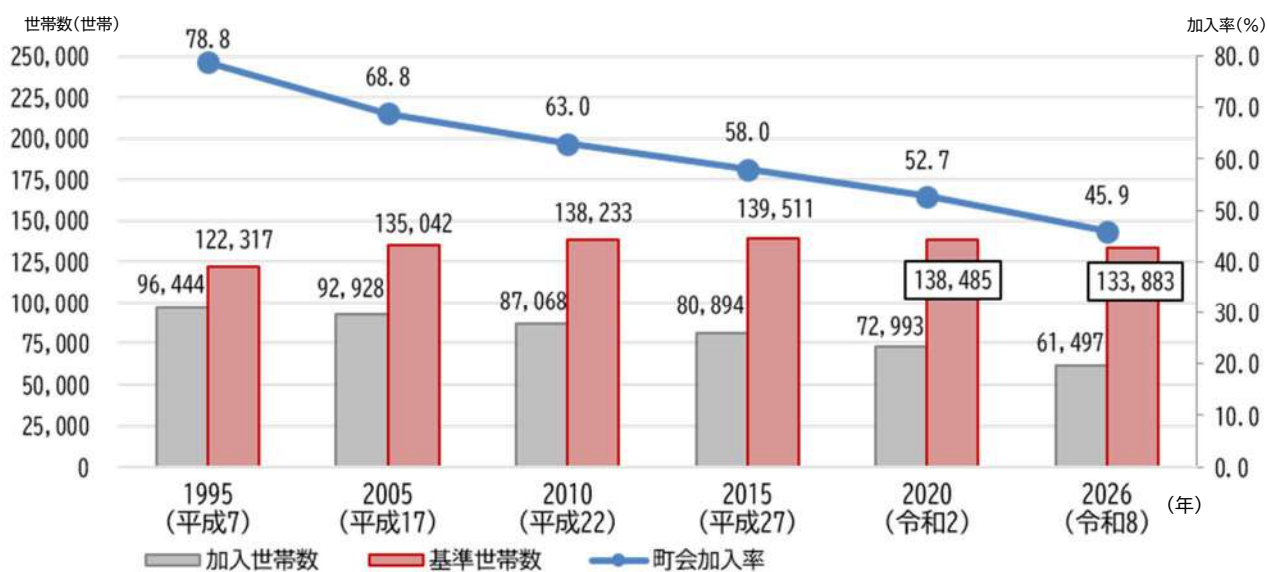


(出典) 函館市

函館市の路面電車、路線バス、およびタクシーの利用者数は減少を続けていますが、新型コロナウイルス感染症の影響があった 2020(令和 2)年度を除いて、2010(平成 22)年度以降は横ばいとなっています。

【図 2 8 : 世帯数と町会加入率の推移】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活



(出典) 函館市

函館市の町会加入率は長期的に低下傾向が続いています。また、全体の基準世帯数が増加していた 2015 (平成 27) 年以前も含め、町会に加入している世帯数そのものも減少が続いています。

【図 2 9：種類別空家の推移】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活



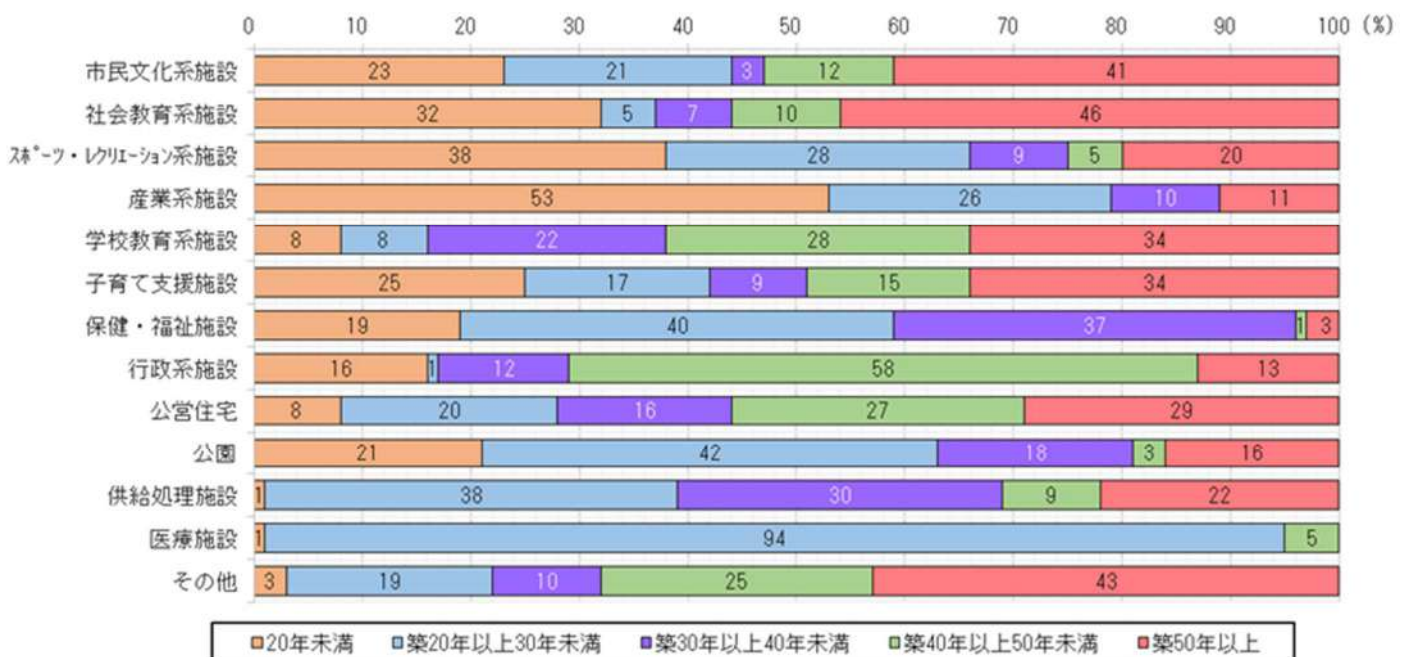
(出典) 総務省統計局「住宅・土地統計調査」(函館市「第3期 函館市空家等対策計画」6 ページより引用)

函館市における種類別の空き家の状況について、「空家率」は長期的にみると増加傾向にあります。また、市場に流通していない空き家である「その他の住宅」は、長期的にみると増加傾向にはありますが、2018（平成30）年をピークに減少に転じています。

【図 3 0：公共施設等 用途分類ごとの経過年数別延床面積の割合等】

検討資料 P.6 2-3-(3) 市民生活

用途分類	延床面積 (㎡)	施設数	主な施設
市民文化系施設	45,109	33	亀田交流プラザ, 芸術ホール, 市民会館など
社会教育系施設	34,226	30	公会堂, 北洋資料館, 箱館奉行所, 中央図書館など
スポーツ・レクリエーション系施設	49,685	27	熱帯植物園, 函館アリーナ, 市民プールなど
産業系施設	19,036	10	計量検査所, 国際水産・海洋総合研究センターなど
学校教育系施設	317,440	59	小学校, 中学校, 市立函館高等学校など
子育て支援施設	8,540	26	保育園, 児童館など
保健・福祉施設	24,426	9	総合保健センター, 老人福祉センターなど
行政系施設	58,982	50	本庁舎, 支所, 消防本部など
公営住宅	368,809	63	市営住宅
公園	7,902	43	管理棟, 便所など
供給処理施設	26,100	9	清掃センター, 七五郎沢廃棄物最終処分場など
医療施設	66,441	3	函館病院, 恵山病院, 南茅部病院
その他	178,429	203	斎場, 公衆便所, 港湾管理事務所, 貸建物など
計	1,205,125	565	



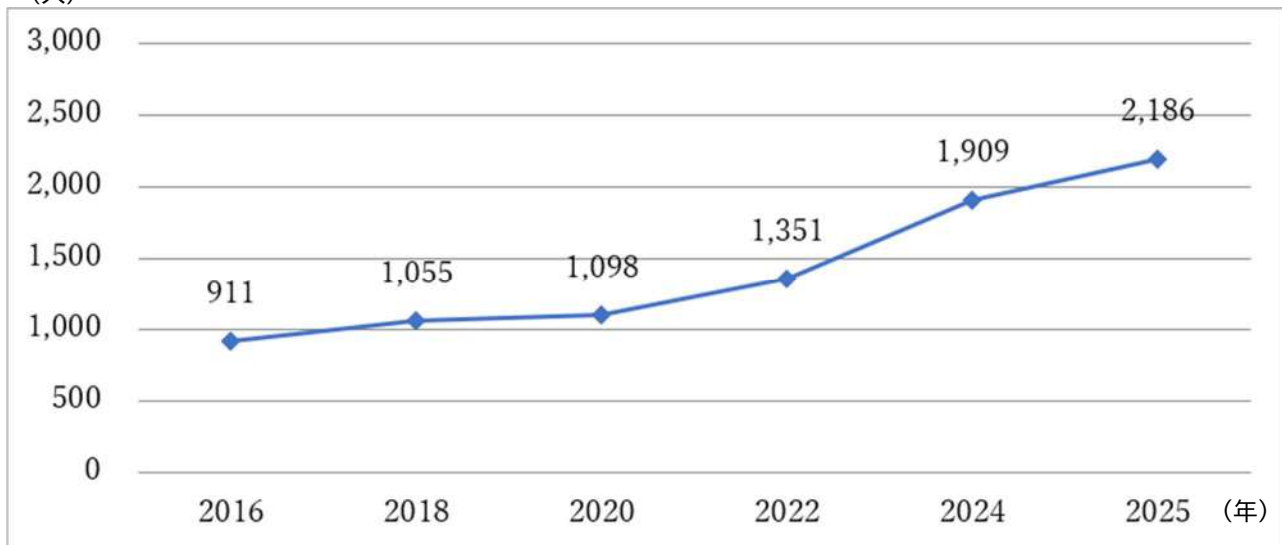
(出典) 函館市「第 2 期 函館市公共施設等総合管理計画」 8～9 ページ

令和 6 (2024) 年度末時点で保有する函館市の公共施設等のうち、延床面積では「公営住宅」(368,809 ㎡) や「学校教育系施設」(317,440 ㎡) が大きな割合を占めています。また、用途分類ごとに築 50 年を経過している施設の割合を見ると、社会教育系施設では 46%、市民文化系施設では 41% を占め、他の用途分類に比べて割合が高い状況にあります。

【図 3 1：外国人人口の推移】

検討資料 P.8 3-1 ウェルビーイングの向上

(人)



(出典) 函館市「住民基本台帳」

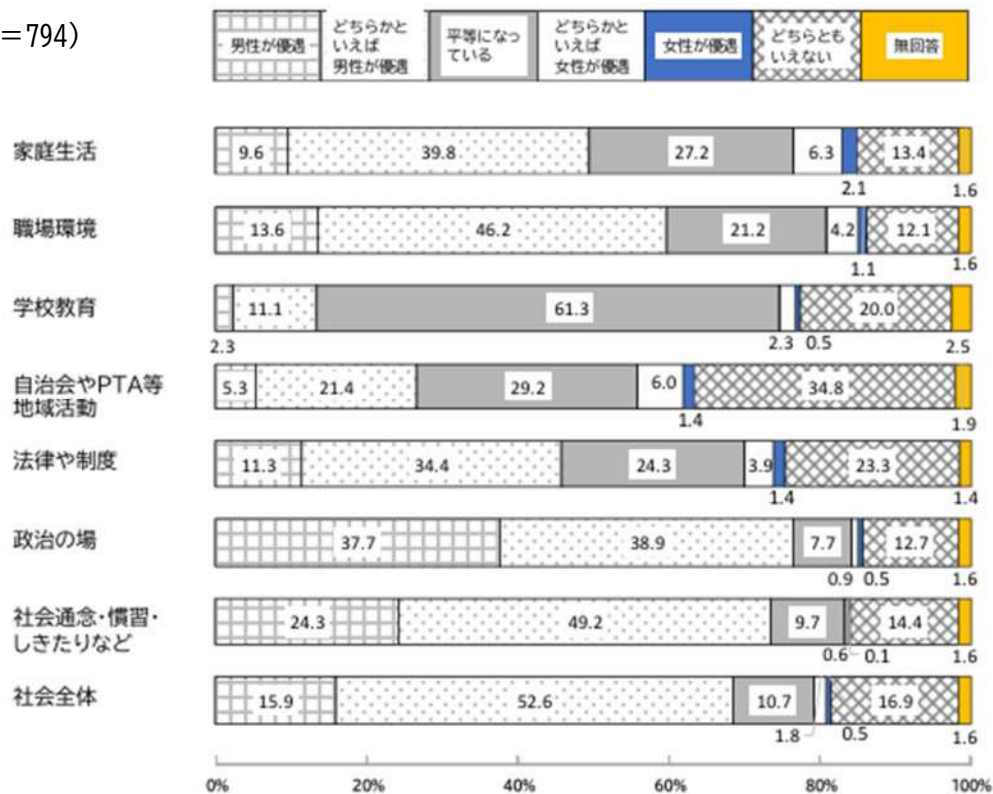
函館市の外国人人口は増加傾向にあり，2025 年は 2,186 人となっています。

【図 3 2：各分野における男女の地位の平等感】

検討資料 P.8 3-1 ウェルビーイングの向上

あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれ○は1つ)。

(n=794)



	男性優遇			平等になっ ている	女性優遇			どちらとも いえない	無回答
	男性が優遇	どちらかとい えば男性 が優遇	計		どちらかとい えば女性 が優遇	女性が優遇	計		
家庭生活	9.6	39.8	49.4	27.2	6.3	2.1	8.4	13.4	1.6
職場や就業活動	13.6	46.2	59.8	21.2	4.2	1.1	5.3	12.1	1.6
学校教育	2.3	11.1	13.4	61.3	2.3	0.5	2.8	20.0	2.5
自治会やPTA等の地域活動	5.3	21.4	26.7	29.2	6.0	1.4	7.4	34.8	1.9
法律や制度	11.3	34.4	45.8	24.3	3.9	1.4	5.3	23.3	1.4
政治の場	37.7	38.9	76.6	7.7	0.9	0.5	1.4	12.7	1.6
社会通念・慣習・しきたりなど	24.3	49.2	73.6	9.7	0.6	0.1	0.8	14.4	1.6
社会全体	15.9	52.6	68.5	10.7	1.8	0.5	2.3	16.9	1.6

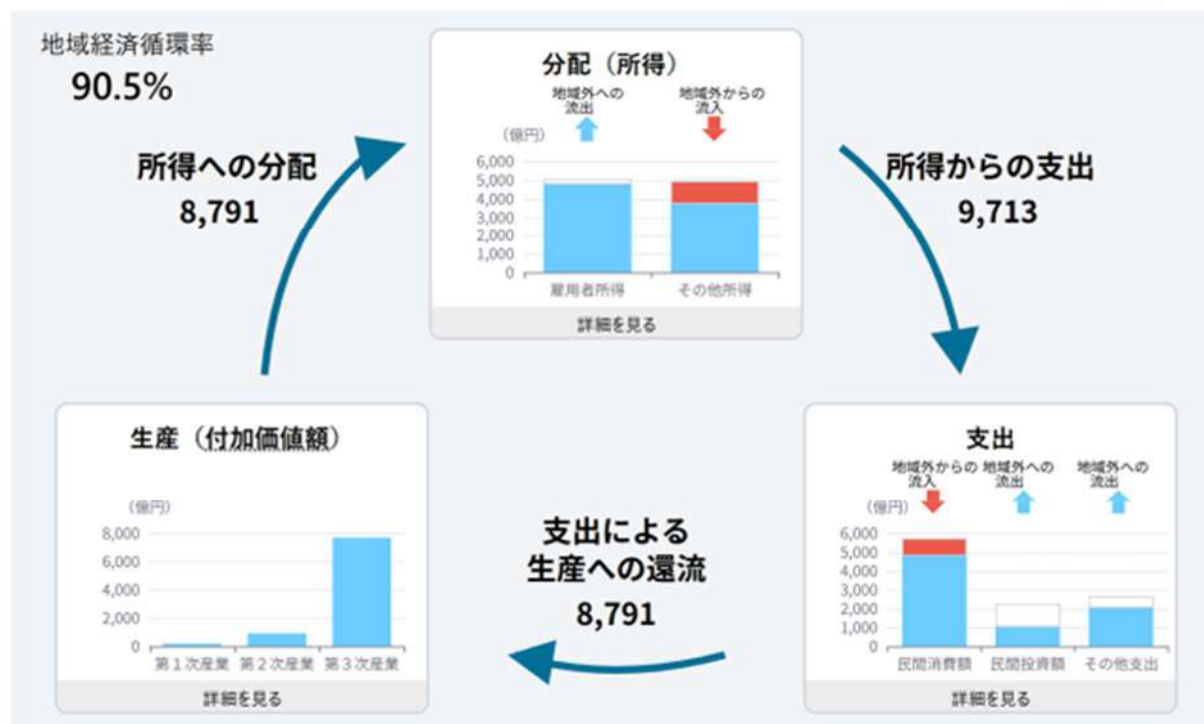
(出典) 函館市「令和3年度 男女共同参画に関する市民・事業者意識調査結果」11 ページ

「平等になっている」と答えた割合は、「学校教育」が61.3%と最も高く、唯一過半数を超えています。次いで、「自治会やPTA等地域活動」(29.2%)、「家庭生活」(27.2%)となっていますが、いずれも30%未満です。その他の分野においては、「男性優遇」が「女性優遇」を大きく上回り、特に「政治の場」、「社会通念、慣習、しきたりなど」、「社会全体」で約7割が「男性優遇」と回答しています。

【図 3 3：地域経済循環図（令和 4（2022）年）】

検討資料 P.8 3-3 地域資源を活かした価値の創出と地域経済の循環

単位：億円



注1：「地域経済循環率」とは、生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示している。（値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。）

注2：他都市参考値（地域経済循環率）

室蘭市：126.9%
苫小牧市：94.7%
帯広市：92.7%
小樽市：85.9%
旭川市：83.4%
網走市：81.2%
釧路市：79.5%
北見市：77.8%

（出典）RESAS（地域経済循環分析）（函館市「経済振興プラン」11 ページより引用）

地域経済循環図では、地域経済の長所と短所を分析し、地域のお金（所得）の流れを生産、分配、支出の三面から「見える化」し、地域経済の全体像や、所得の流入（お金を稼ぐ力・流出額）、地域内の産業間取引（循環構造）を把握することができます。

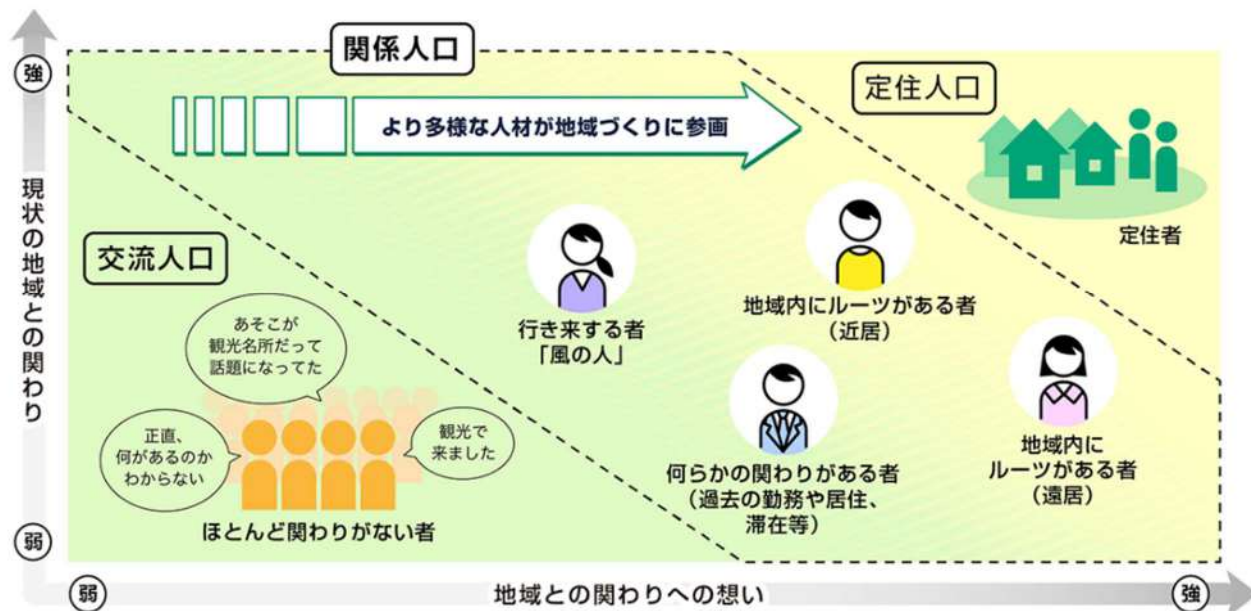
函館市における地域経済循環は、①生産（付加価値額）：8,791 億円に対して、②分配（所得）：9,713 億円で、地域経済循環率（①÷②）は 90.5%となっていますが、これは、③支出において、観光等の消費活動により域外から一定の流入がある反面、地域住民・企業の消費や設備投資の需要が、大きく域外に流出していることが要因と考えられます。

地域経済循環率を上げるためには、①の生産（付加価値額）を上げること、③の支出のうち地域外への流出を減らすことが必要であり、地域経済循環率を上げることが、地域経済の強化に繋がっていくこととなります。

【図 3 4：関係人口】

検討資料 P.12 5-2-(4) ⑫つながりと共創を育む移住・関係人口の創出

参考：イメージ図



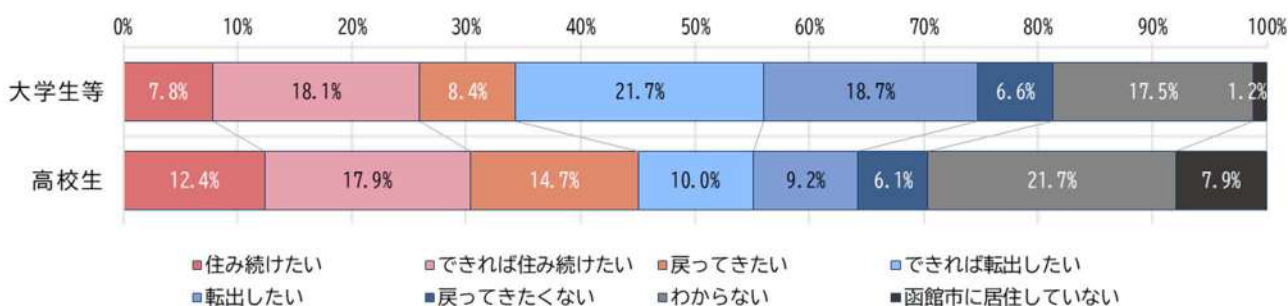
(出典) 総務省ホームページ

本図は、地域との関わりの多様な段階を示すイメージ図です。一時的に地域を訪れる観光客などの「交流人口」と、地域に実際に住んでいる「定住人口」の中間に位置する層を「関係人口」として定義しています。「関係人口」には、地域を頻繁に行き来する人や、過去の勤務や居住などで何らかの関わりがある人、地域内にルーツがある人などが含まれており、こうした多様な人材が地域づくりに参画する層として位置づけられています。

【図 3 5：今後のまちづくりや魅力等についてのアンケート結果】

検討資料 P.4 2-2-(2) 地域資源, P.10~12 5-1 基本方針, 5-2 基本施策
 ※函館市「令和 6 年度 地方創生に関するアンケート調査 地域幸福度 (Well-Being) 指標に関するアンケート調査 結果報告書」(35~43 ページ) より一部抜粋

今後も函館市に住み続けたいと思いますか。または、進学や就職で函館市を離れても、また戻りたいですか。あてはまる番号を 1 つ選んで番号に○をつけてください。



区分	住み続けたい	できれば住み続けたい	戻ってきたい	できれば転出したい	転出したい	戻ってきたくない	わからない	函館市に居住していない	合計
大学生等	13人 7.8%	30人 18.1%	14人 8.4%	36人 21.7%	31人 18.7%	11人 6.6%	29人 17.5%	2人 1.2%	166人 100%
高校生	114人 12.4%	165人 17.9%	135人 14.7%	92人 10.0%	85人 9.2%	56人 6.1%	200人 21.7%	73人 7.9%	920人 100%

「住み続けたい」、「できれば住み続けたい」、「戻ってきたい」を合わせた回答は、大学生等では 34.3%で、高校生では 45.0%であるのに対し、「できれば転居したい」、「転居したい」、「戻ってきたくない」を合わせた回答は、大学生等では 47.0%で、高校生では 25.3%となっています。

「住み続けたい」「戻ってきたい」と思う理由について、次の中から3つまで選んで番号に○をつけてください。（複数回答）

区分	買い物が便利	市内の移動が便利	市外への移動が便利	まち並みが良い	魅力的な職場がある	魅力的な進学先がある	娯楽・レジャーが楽しめる	愛着がある	治安が良い	気候が良い	実家があるため	その他	n
大学生等	10人 17.5%	8人 14.0%	5人 8.8%	19人 33.3%	3人 5.3%	1人 1.8%	3人 5.3%	38人 66.7%	13人 22.8%	19人 33.3%	21人 36.8%	5人 8.8%	57人
高校生	56人 13.5%	52人 12.6%	9人 2.2%	152人 36.7%	22人 5.3%	16人 3.9%	18人 4.3%	236人 57.0%	72人 17.4%	32人 7.7%	250人 60.4%	13人 3.1%	414人

大学生等では「愛着がある」が66.7%で最も高く、次に「実家があるため」が36.8%、「まち並みが良い」と「気候が良い」が33.3%で続いています。高校生では「実家があるため」が60.4%で最も高く、次に「愛着がある」が57.0%、「まち並みが良い」が36.7%で続いています。

「住み続けたい」「戻ってきたい」と思わない理由について、次の中から3つまで選んで番号に○をつけてください。（複数回答）

区分	買い物が不便	市内の移動が不便	市外への移動が不便	まち並みが悪い	魅力的な職場がない	魅力的な進学先がない	娯楽・レジャーが楽しめない	愛着がない	治安が悪い	気候が悪い	実家のある地元に戻りたい	その他	n
大学生等	20人 25.6%	34人 43.6%	21人 26.9%	7人 9.0%	30人 38.5%	4人 5.1%	38人 48.7%	8人 10.3%	14人 17.9%	1人 1.3%	20人 25.6%	3人 3.8%	78人
高校生	89人 38.2%	56人 24.0%	25人 10.7%	22人 9.4%	87人 37.3%	85人 36.5%	119人 51.1%	36人 15.5%	23人 9.9%	2人 0.9%	9人 3.9%	11人 4.7%	233人

大学生等では「娯楽・レジャーが楽しめない」が48.7%と最も高く、次に「市内の移動（市電・バス）が不便」が43.6%、「魅力的な職場がない」が38.5%と続いています。

高校生では「娯楽・レジャーが楽しめない」が51.1%と最も高く、次に「買い物が不便」が38.2%、「魅力的な職場がない」が37.3%と続いています。

函館市の魅力や誇れるものは何だと思いますか。主なものを3つまで選んで番号に○をつけてください。(複数回答)

項目	20 歳以上 (n=1,343)		大学生等 (n=166)		高校生 (n=920)	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
函館の開港の歴史や五稜郭・縄文遺跡などの歴史的財産	573 人	42.7%	82 人	49.4%	413 人	44.9%
函館山からの夜景	775 人	57.7%	62 人	37.3%	618 人	67.2%
教会群や歴史的建造物などの異国情緒あるまち並み	481 人	35.8%	57 人	34.3%	167 人	18.2%
生鮮食料品のおいしさ・充実度	555 人	41.3%	61 人	36.7%	397 人	43.2%
飲食店や菓子店の充実度	66 人	4.9%	22 人	13.3%	75 人	8.2%
身近な温泉施設の立地	248 人	18.5%	19 人	11.4%	97 人	10.5%
港まつりなどの地域におけるイベントの充実度	76 人	5.7%	26 人	15.7%	234 人	25.4%
大学などの高等教育機関があること	18 人	1.3%	15 人	9.0%	11 人	1.2%
医療・福祉が充実していること	59 人	4.4%	5 人	3.0%	31 人	3.4%
作家・芸術家・音楽家などのゆかりの地	20 人	1.5%	2 人	1.2%	16 人	1.7%
教育・文化・芸術・スポーツ・国際交流など盛んな市民活動	19 人	1.4%	11 人	6.6%	23 人	2.5%
海と山が身近にある自然環境	465 人	34.6%	42 人	25.3%	248 人	27.0%
気候による過ごしやすさ	427 人	31.8%	35 人	21.1%	117 人	12.7%
その他	13 人	1.0%	2 人	1.2%	6 人	0.7%
無効・無回答	8 人	0.6%	0 人	0.0%	0 人	0.0%

「函館の開港の歴史や五稜郭・縄文遺跡などの歴史的財産」や「函館山からの夜景」,「生鮮食料品のおいしさ・充実度」については、全世代で多くの人が魅力や誇れるものであると回答しています。

函館のまちに対し、特に満足と思うこと、不満と思うことをそれぞれ教えてください。

※ 複数の分野にわたる意見については重複カウントしているため、意見総数と回答者数は一致しません。

【特に満足と思うこと】

項目	20 歳以上 (n=755)		大学生等 (n=102)		高校生 (n=583)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
函館の住みやすさ	151 件	20.0%	15 件	14.7%	50 件	8.6%
日常の買い物の便利さ	15 件	2.0%	8 件	7.8%	9 件	1.5%
市内の移動（市電・バス）の便利さ	20 件	2.6%	6 件	5.9%	24 件	4.1%
市外への移動（船・飛行機・鉄道）の便利さ	22 件	2.9%	2 件	2.0%	8 件	1.4%
歩行、自転車での道路の使いやすさ	4 件	0.5%	0 件	0.0%	3 件	0.5%
自動車での道路の使いやすさ	11 件	1.5%	1 件	1.0%	2 件	0.3%
医療や福祉の施設やサービス体制	28 件	3.7%	0 件	0.0%	6 件	1.0%
子育て支援	16 件	2.1%	0 件	0.0%	0 件	0.0%
（子どもの）教育環境	2 件	0.3%	1 件	1.0%	1 件	0.2%
雇用の場（業種や企業規模の選択肢）	1 件	0.1%	0 件	0.0%	0 件	0.0%
娯楽・レジャーの充実	3 件	0.4%	5 件	4.9%	7 件	1.2%
食べ物のおいしさ・充実度	125 件	16.6%	15 件	14.7%	135 件	23.2%
歴史・文化資源の保存・活用	49 件	6.5%	9 件	8.8%	24 件	4.1%
観光資源の充実度	89 件	11.8%	12 件	11.8%	89 件	15.3%
都市景観・自然景観	85 件	11.3%	15 件	14.7%	113 件	19.4%
治安	5 件	0.7%	0 件	0.0%	9 件	1.5%
なし	111 件	14.7%	5 件	4.9%	57 件	9.8%
その他	109 件	14.4%	18 件	17.6%	78 件	13.4%
合計	846 件		112 件		615 件	

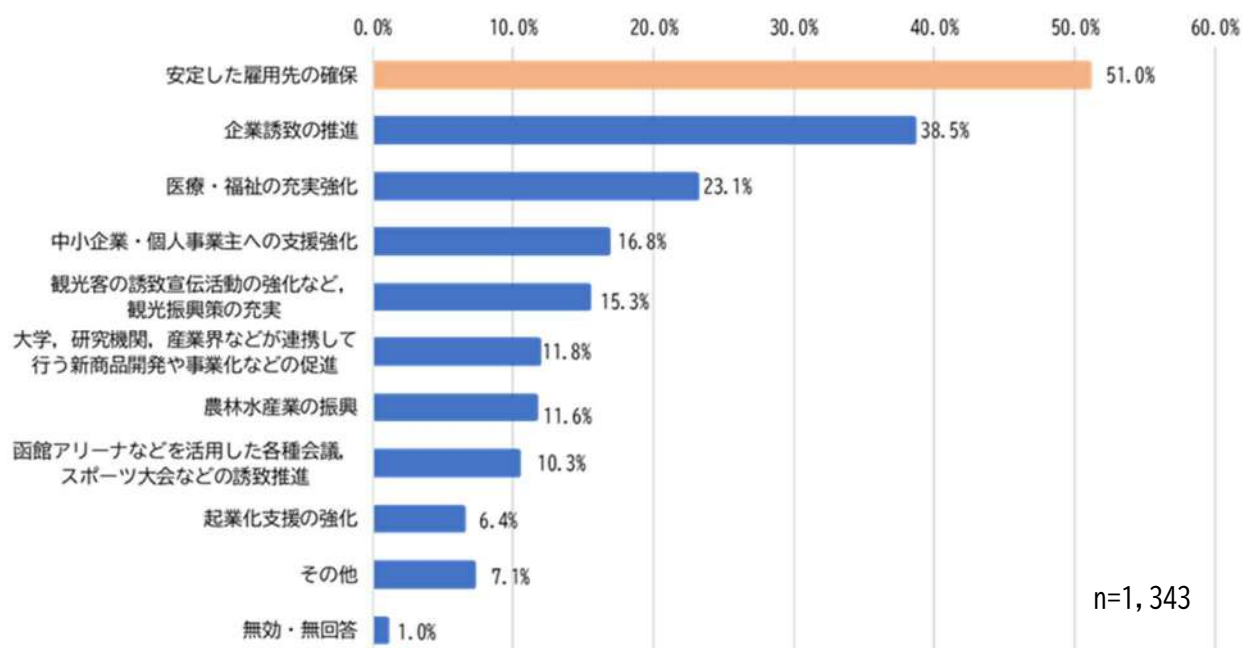
「その他」の主な意見としては、「都市としての規模がちょうど良い」、「まちがコンパクトにまとまっている」、「優しい人が多い」などが挙げられています。

【特に不満と思うこと】

項目	20 歳以上 (n=901)		大学生等 (n=119)		高校生 (n=582)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
函館の住みやすさ	8 件	0.9%	1 件	0.8%	1 件	0.2%
日常の買い物の便利さ	61 件	6.8%	23 件	19.3%	92 件	15.8%
市内の移動（市電・バス）の便利さ	99 件	11.0%	46 件	38.7%	74 件	12.7%
市外への移動（船・飛行機・鉄道）の便利さ	11 件	1.2%	16 件	13.4%	25 件	4.3%
歩行、自転車での道路の使いやすさ	34 件	3.8%	4 件	3.4%	12 件	2.1%
自動車での道路の使いやすさ	55 件	6.1%	5 件	4.2%	15 件	2.6%
医療や福祉の施設やサービス体制	26 件	2.9%	0 件	0.0%	0 件	0.0%
子育て支援	47 件	5.2%	0 件	0.0%	2 件	0.3%
（子どもの）教育環境	27 件	3.0%	1 件	0.8%	50 件	8.6%
雇用の場（業種や企業規模の選択肢）	125 件	13.9%	10 件	8.4%	22 件	3.8%
娯楽・レジャーの充実	172 件	19.1%	34 件	28.6%	223 件	38.3%
食べ物のおいしさ・充実度	8 件	0.9%	1 件	0.8%	1 件	0.2%
歴史・文化資源の保存・活用	0 件	0.0%	0 件	0.0%	0 件	0.0%
観光資源の充実度	32 件	3.6%	2 件	1.7%	6 件	1.0%
都市景観・自然景観	58 件	6.4%	1 件	0.8%	19 件	3.3%
治安	10 件	1.1%	7 件	5.9%	43 件	7.4%
なし	38 件	4.2%	5 件	4.2%	84 件	14.4%
その他	269 件	29.9%	9 件	7.6%	60 件	10.3%
合計	1,080 件		165 件		729 件	

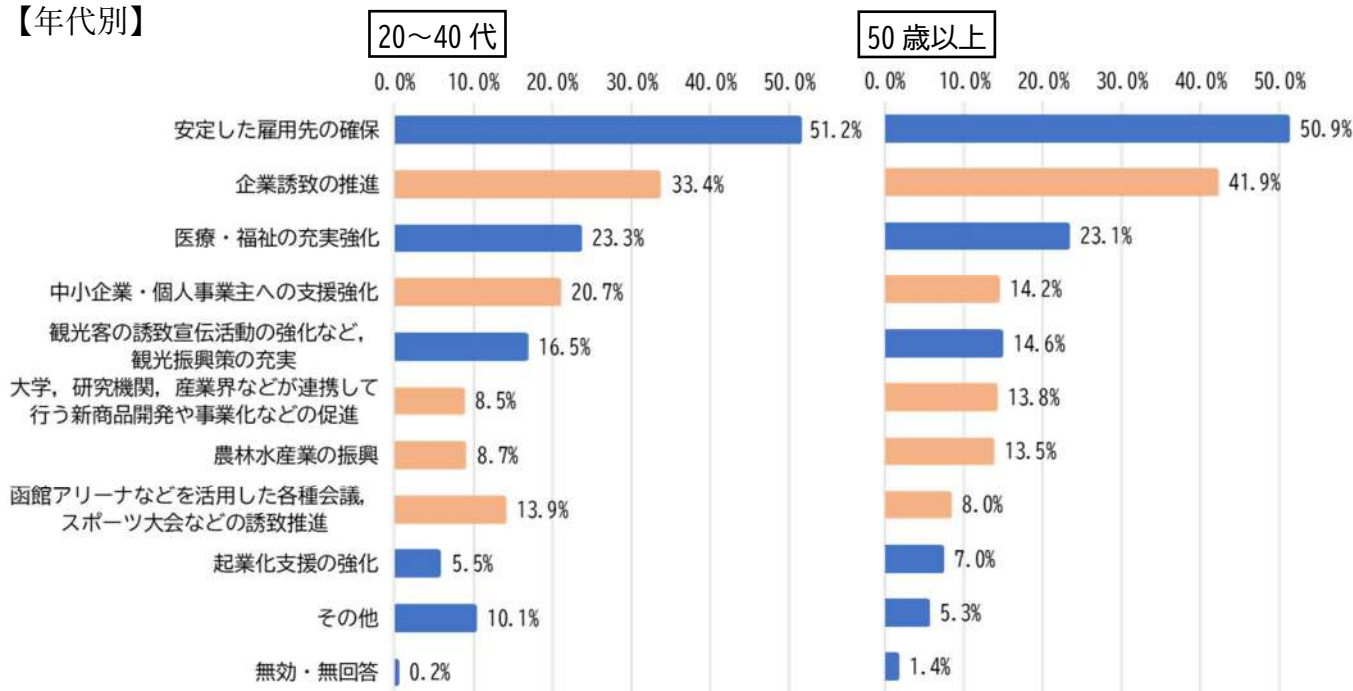
「その他」の主な意見としては、「人口減少と高齢化が急激に進んでいる」、「全体的に活気がない」、「自動車・自転車の運転マナーが悪く危険である」、「若い人が住みたいと思うような魅力がない」、「冬の除雪状況が悪い」、「税金が高い」などが挙げられています。

函館市の経済を活性化するために、どのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。
 主なものを2つまで選んで番号に○をつけてください。(複数回答)



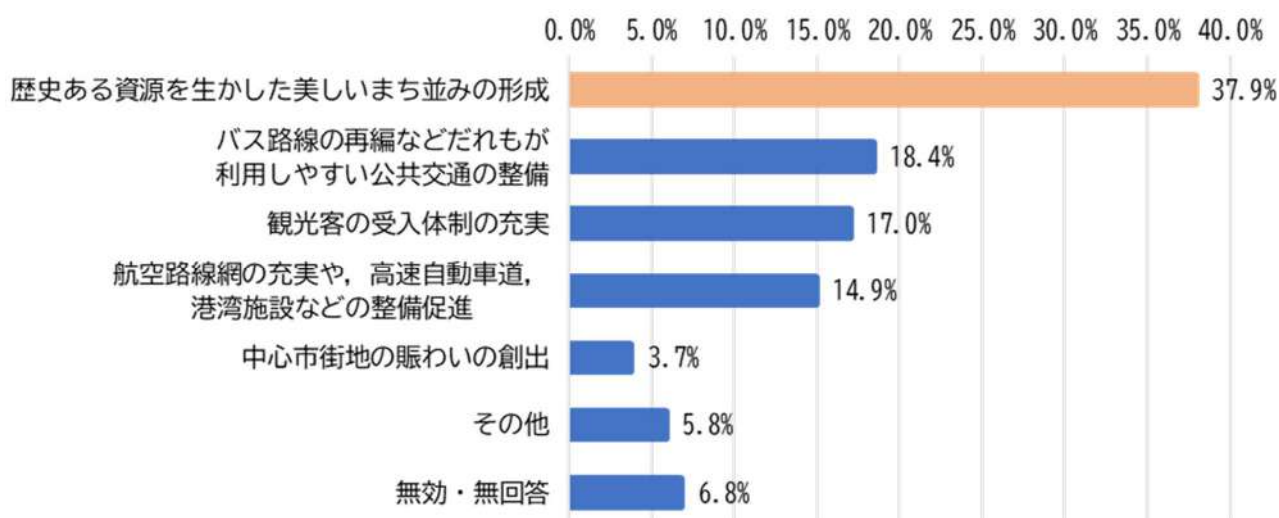
「安定した雇用先の確保」が51.0%と最も高く、「企業誘致の推進」が38.5%と続いています。「その他」の内容としては「商業施設、娯楽施設の充実」、「子育て支援の充実」、「野外フェスやコンサートの誘致」等が挙げられています。

【年代別】



年代別では、「企業誘致の推進」、「中小企業・個人事業主への支援強化」、「大学、研究機関、産業界などが連携して行う新商品開発や事業化などの促進」、「農林水産業の振興」、「函館アリーナなどを活用した各種会議、スポーツ大会などの誘致推進」で概ね5ポイント以上の差がありました。

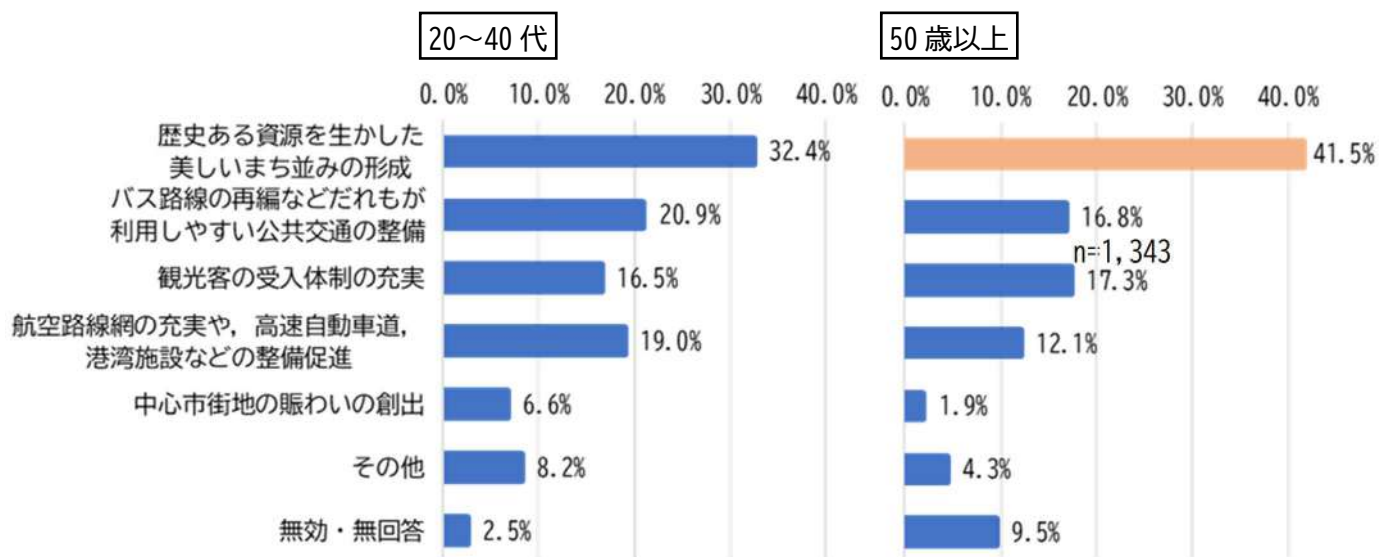
まちの魅力を高めるために、どのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。主なものを2つまで選んで番号に○をつけてください。(複数回答)



「歴史ある資源を生かした美しいまち並みの形成」が37.9%と最も高く、次に「バス路線の再編などだれもが利用しやすい公共交通の整備」が18.4%となっています。

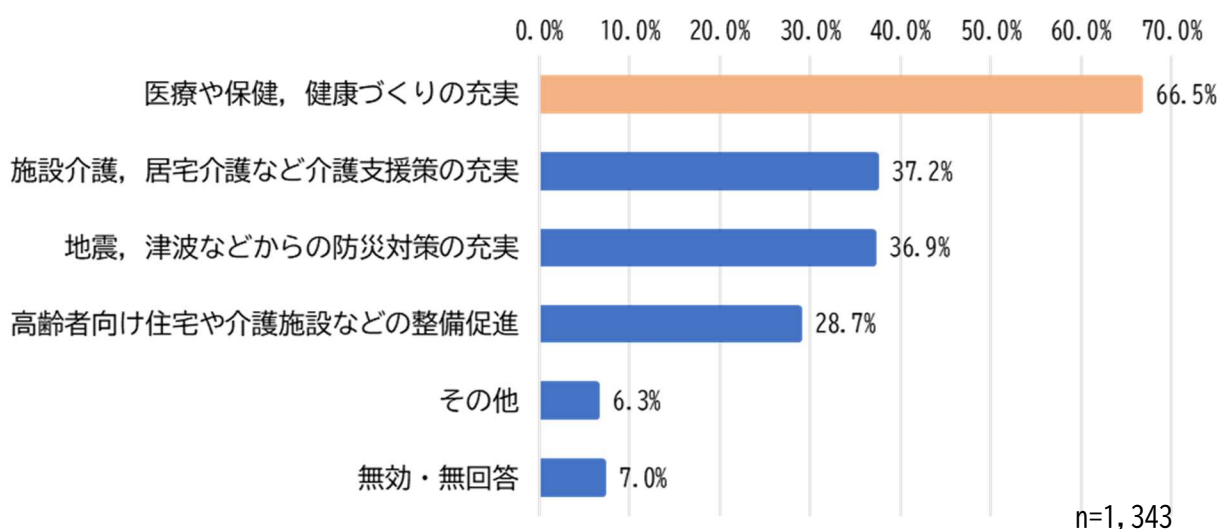
「その他」の内容としては、「観光客だけではなく地元住民も楽しめる施設の充実」、「商業施設、娯楽施設の充実」等が挙げられています。

【年代別】



50歳以上では、20～40代に比べて「歴史ある資源を生かした美しいまち並みの形成」が特に高くなっています。

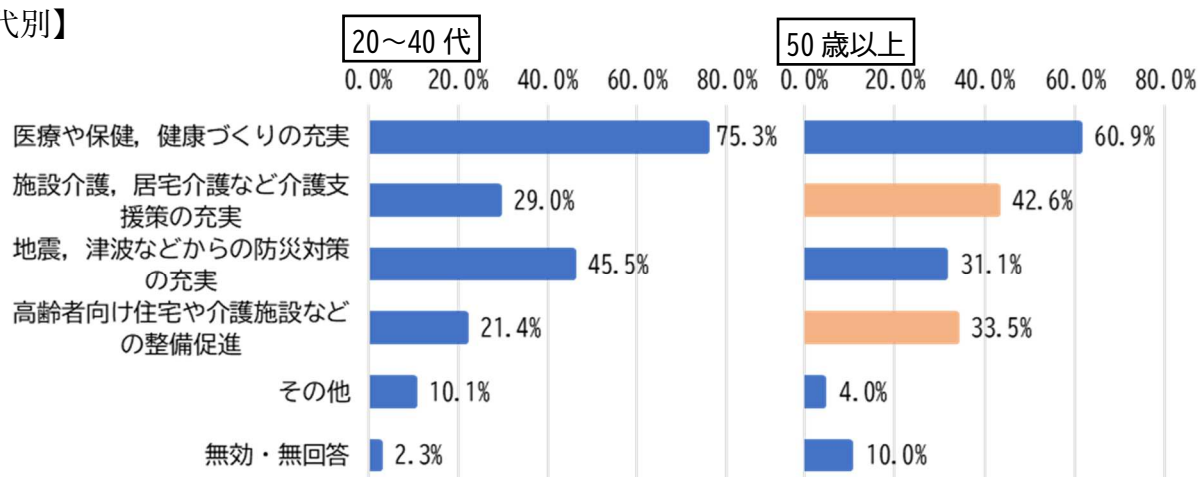
だれもが安心して住めるまちづくりを進めるために、どのようなことに取り組んでいくべきだと思いますか。主なものを2つまで選んで番号に○をつけてください。(複数回答)



「医療や保健, 健康づくりの充実」が 66.5%と最も高く, 次に「施設介護, 居宅介護など介護支援策の充実」が 37.2%となっています。

「その他」の内容としては福祉に関する回答の他, 「安定した雇用先の確保」, 「子育て支援の充実」, 「防犯対策の拡充」等も挙げられています。

【年代別】



50歳以上では「施設介護, 居宅介護など介護支援策の充実」, 「高齢者向け住宅や介護施設などの整備促進」を選択する割合が高くなっています。

下表は、アンケート調査票の自由意見欄に記入された内容を、令和元（2019）年度に策定した「第2期函館市活性化総合戦略」の具体的な施策別にまとめたものです。

※ 複数の分野にわたる意見については重複カウントしているため、意見総数と回答者数は一致しません。

3つの 基本目標	具体的な施策	20歳以上 (n=563)		大学生等 (n=55)		高校生 (n=196)	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
市民一人 ひとりの 幸せを大切に します	地域で見守り支える福祉拠点づくり	20件	3.6%	0件	0.0%	1件	0.5%
	健康で元気に生活できる環境づくり	25件	4.4%	1件	1.8%	1件	0.5%
	出産・子育てへの支援強化	116件	20.6%	6件	10.9%	31件	15.8%
	ひとり親家庭等への支援強化	8件	1.4%	0件	0.0%	1件	0.5%
	地域の将来を担う人づくり	28件	5.0%	3件	5.5%	6件	3.1%
	いじめや虐待の未然防止・早期発見・早期対応	0件	0.0%	0件	0.0%	0件	0.0%
	教育環境の充実	43件	7.6%	3件	5.5%	20件	10.2%
函館の 経済を支え 強化します	観光客等の増加をめざす取組	84件	14.9%	4件	7.3%	17件	8.7%
	ITやロボットなど先端技術を活用した生産性の向上	0件	0.0%	0件	0.0%	0件	0.0%
	食を支える安心・安全な農水産物の生産・供給支援のほか、食の魅力を高め、多くのひとを呼び込み販路拡大につなげる支援	4件	0.7%	0件	0.0%	0件	0.0%
	誰もが生き生き働くことができる環境整備	246件	43.7%	16件	29.1%	16件	8.2%
快適で 魅力ある まちづくり を進めます	デザイン性の高い町並みの整備やにぎわい空間の創出	40件	7.1%	14件	25.5%	11件	5.6%
	交通アクセスの向上	28件	5.0%	2件	3.6%	1件	0.5%
	災害に強く安心・安全なまちへの体制強化	9件	1.6%	4件	7.3%	0件	0.0%
	公共交通の充実	28件	5.0%	10件	18.2%	6件	3.1%
	文化・スポーツの振興	2件	0.4%	2件	3.6%	1件	0.5%
	環境にやさしいまちの推進	2件	0.4%	0件	0.0%	2件	1.0%
	移住・定住を検討している方への魅力発信	24件	4.3%	4件	7.3%	7件	3.6%
	行政事務の効率化と市民の利便性向上	0件	0.0%	0件	0.0%	0件	0.0%
その他(※)		155件	27.5%	12件	21.8%	73件	37.2%
特になし		11件	2.0%	2件	3.6%	39件	19.9%
合 計		873件		83件		233件	

20歳以上および大学生等では、ともに「誰もが生き生き働くことができる 環境整備」に関する意見が最も多く、それぞれ43.7%、29.1%となっています。高校生では「出産・子育てへの支援強化」が15.8%と最も多くなっています。

※ 「その他」の主な意見としては、「レジャー・娯楽施設が少ない」、「若者が函館に残りたいと思えるようなまちにして欲しい」、「観光客だけでなく、市民に対する施策を充実させるべき」などが挙げられています。

第1回審議会 各委員からの意見一覧

参考資料 2

意見主旨		資料 該当箇所	
1	雇用の創出や、限られた資源の中で工夫しながら活性化していくことが一番大事ではないか。	P8	【3 まちづくりの視点】 3 地域資源を活かした価値の創出と地域経済の循環 ・（前略）本市の地域資源を活用するだけでなく、磨き上げや組み合わせにより新たな価値を創出し、付加価値の高い産業やサービスの展開につなげ、 （中略）地域で生み出された価値を域内で循環する経済の仕組みづくりを進める視点が重要となります。
		P9	【4 目指すまちの姿】 「2 まちに活気や賑わいがあり、ここで仕事をして暮らしていきたいと思えるイメージ像」 ・（前略）これまで培われてきた水産業や観光業をはじめとする基幹産業に加え、本市が有する地域資源やポテンシャルを活かし、（後略） ・多様な人材が活躍できる環境づくりを進める（以下略）
2	函館に住んでいる人がその魅力に気づいていないのではないか。	P4	【2 本市を取り巻く状況】 2 本市の特性 （2）地域資源 ①名所 ②史跡 ③名産品 ④施設 ⑤公園 ⑥交通 ※強み・魅力を明記
3	市民の皆さんにどうやって函館の魅力を伝えていくかが大きなポイントではないか。	P8	【3 まちづくりの視点】 2 シビックプライドの醸成 ・（前略）市民一人ひとりが地域に愛着と誇りを持ち、自分事として主体的に地域活動や地域課題の解決へ関わる視点が重要となります。
4	「グリーン・デスティネーションズ」のような持続可能な観光に関する国際的な基準を定めている団体の認定をもらうため、積極的に審査を受けに行ったりすることで函館自身の価値が高まるのではないか。	P12	【5 実現に向けて】 2 基本施策 （4）世界に誇る強みと魅力にあふれる持続可能なまち ⑩世界に誇れる都市の価値と魅力の創出 ・観光や食、歴史・文化など函館の魅力ある地域資源を活かし、国内外に誇れる都市の魅力と価値を高める（後略）
5	若者のシビックプライドの育成が鍵となる。学校教育における若者のシビックプライドの育成に力を入れるのが大事ではないか。	P8	【3 まちづくりの視点】 2 シビックプライドの醸成 ・（前略）市民一人ひとりが地域に愛着と誇りを持ち、自分事として主体的に地域活動や地域課題の解決へ関わる視点が重要となります。

意見主旨		資料 該当箇所	
6	若者に函館のまちの良さに気づいてもらい、残ってもらうためにはどんな方法があるのか。	P10	【5 実現に向けて】 1 基本方針 (3) 多様な仕事や働き方を選び、将来を描けるまち ・誰もが自分らしく働き、将来に希望を持ちながら多様な働き方を選択できるよう、柔軟な雇用環境の整備やD Xの推進、人材育成、起業支援などに取り組むとともに、観光や食、農林水産業など地域資源を活かした産業振興や新たな産業の創出を進めることで、地域経済の活力を高めながら、将来を担う人材が地域で挑戦し活躍できるまちを目指します。
7	帰ってきたいと思える街であることが大事なポイントで、帰ってきた人たちが何かに挑戦できる、ここでトライしてみようと思えるようなまちであつたら良いのではないかな。	P10 P12	【5 実現に向けて】 1 基本方針 (1) 人にやさしく、住み続けたい・帰ってきたいと思えるまち 【5 実現に向けて】 2 基本施策 (3) 多様な仕事や働き方を選び、将来を描けるまち ⑧地域経済を支える人材育成と事業者支援 ・(前略)自分らしい未来を選択できる環境を整えるとともに、幸せを実感しながら、住み続けたい・帰ってきたいと思えるまちを目指します。 ・(前略)起業の促進に加え、地域経済を担う若者や多様な人材の育成に取り組むとともに、事業者の成長を支援します。
8	公衆衛生の観点からも、交通の便からも生活していく上で大変なところがあり、基本方針(2)の「笑顔と活気にあふれ、機能的で暮らしやすいまち」を要望したい。	P10	【5 実現に向けて】 1 基本方針 (2) 笑顔と活気にあふれ、機能的で暮らしやすいまち ・市民一人ひとりが、健康で生きがいを持ち、安心して暮らし続けられるよう、医療や福祉の充実に加え、(中略)誰もが笑顔で生き生きと暮らすことができる、安全で安心なまちを目指します。
9	高齢者の移動手段が限られてきてしまうことから、公共交通がすべてを考える上で重要な交通手段になってくると感じる。公共交通を念頭にしたような表現ができればより良いのではないかな。	P11	【5 実現に向けて】 2 基本施策 (2) 笑顔と活気にあふれ、機能的で暮らしやすいまち ⑤安心して快適な生活環境の形成 ・公共交通の維持・確保など地域生活を支える環境づくりを進める(中略)安心して快適な暮らしの実現を目指します。
10	若者に地域に残っていただく視点として、将来の産業を見据えて、地域ニーズ、産業ニーズにマッチした高度な人材の育成も目指していくというような視点がほしい。また、若い人たちが函館で、ローリスクで挑戦できる、スタートアップができるといった視点も大事ではないかな。	P10	【5 実現に向けて】 1 基本方針 (3) 多様な仕事や働き方を選び、将来を描けるまち ・誰もが自分らしく働き、将来に希望を持ちながら多様な働き方を選択できるよう、柔軟な雇用環境の整備やD Xの推進、人材育成、起業支援などに取り組むとともに、観光や食、農林水産業など地域資源を活かした産業振興や新たな産業の創出を進めることで、地域経済の活力を高めながら、将来を担う人材が地域で挑戦し活躍できるまちを目指します。

意見主旨		資料 該当箇所		
11	文化・芸術やスポーツ活動が果たす役割というもの重要ではないか。	P12	【5 実現に向けて】 2 基本施策 （4）世界に誇る強みと魅力にあふれる持続可能なまち ⑩世界に誇れる都市の価値と魅力の創出	観光や食，歴史・文化など函館の魅力ある地域資源を活かし，（中略）文化・スポーツの振興を図ります。
12	若者などが函館に来てもらうような内容はどこに入ってくるか。	P4	【2 本市を取り巻く状況】 2 本市の特性 （2）地域資源	①名所 ②史跡 ③名産品 ④施設 ⑤公園 ⑥交通 ※強み・魅力を明記
		P8	【3 まちづくりの視点】 4 選択と集中による未来への投資	・（前略）限られた財源の中で中長期を見据え，子どもたちや若者への投資，さらには地域資源を活かした魅力あるまちづくりなどへ重点的に配分する視点が重要となります。
		P12	【5 実現に向けて】 2 基本施策 （3）多様な仕事や働き方を選び，将来を描けるまち ⑦多様で柔軟な働き方を実現する雇用環境の充実 ⑧地域経済を支える人材育成と事業者支援	・若者の地元就職やU I ターン就職の促進，（中略）誰もが柔軟な働き方を選択できる雇用環境の充実を図ります。 ・（前略）起業の促進に加え，地域経済を担う若者や多様な人材の育成に取り組むとともに，事業者の成長を支援します。
13	送り出す親が，子どもに対して，いろいろ外を見て大きくなって帰っておいで，いつでも待っているからねというような気持ちで送り出してあげることが大事ではないか。	P11	【5 実現に向けて】 2 基本施策 （1）人にやさしく，住み続けたい・帰ってきたいと思えるまち ①支え合いと幸せを実感できる郷土づくり	・（前略）地域のつながりを大切にしながら，郷土への愛着と誇りを育み，幸せを実感できるまちづくりを進めます。

意見主旨		資料 該当箇所		
14	稼げるまちであるか、函館で十分に子どもを産んで育てられる環境があるかどうかが生産率を上げて若年層を増やし、今後の人口減に歯止めをかけられるかどうかにつながる大きな視点なのではないか。	P8	【3 まちづくりの視点】 3 地域資源を活かした価値の創出と地域経済の循環	・（前略）付加価値の高い産業やサービスの展開につなげ、国内外からの需要も取り込みながら、地域で生み出された価値を域内で循環する経済の仕組みづくりを進める視点が重要となります。
		P11	【5 実現に向けて】 2 基本施策 （1）人にやさしく、住み続けたい・帰ってきたいと思えるまち ②安心して結婚・子育てができる環境づくり	・出会い・結婚から妊娠・出産・子育てに至るまでの切れ目のない支援の充実、（後略）
15	今ある資源を皆の知恵で活かしていき、若い人にはさらにワクワク感を持ってもらいたい。	P9	【4 目指すまちの姿】 「2 まちに活気や賑わいがあり、ここで仕事をして暮らしていきたいと思えるイメージ像」	・（前略）本市が有する地域資源やポテンシャルを活かし、（中略）今後成長が期待される分野における産業振興を推進します。